

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-5

< 第13週 > 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.6-9

< 百日咳 >
第13週の定点からの患者報告数は109例であり、2000年以降の同時期の最高値を大きく上回った



病原体情報
P.10-15

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2008年 / 麻疹ウイルス 2008年 / インフルエンザウイルス 2007/08シーズン / 感染性胃腸炎関連ウイルス 2007/08シーズン



速報
P.16-30

ジアルジア症 1999年4月～2006年3月(2007年7月31日現在) / 2008年2～3月仙台市におけるC型インフルエンザウイルスの相次ぐ分離 / 発疹熱の輸入感染症例の発生について



海外感染症情報
P.31

鳥インフルエンザ - インドネシアにおける状況 / 鳥インフルエンザ - パキスタンにおける状況



感染症の話
P.32

< 今週はお休みです >



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(13週)
P.33-38



13週のデータ
P.39-51



発生動向総覧

2008年1月からの省令改正に伴い、疾病の追加および並び順を一部変更しました。

< 第13週コメント > 4月3日集計分

全数報告の感染症

注意: これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては一部を除いて発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。

感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

1類感染症

報告なし

2類感染症

結核258例

3類感染症

コレラ1例

感染地域: 長野県

細菌性赤痢4例

感染地域: 千葉県1例、福岡県1例、インドネシア1例、ラオス/タイ/カンボジア1例

腸管出血性大腸菌感染症14例(有症者8例、HUSなし)

感染地域: 大分県3例*、島根県2例、東京都1例、新潟県1例、愛知県1例、大阪府1例、福岡県1例、佐賀県1例**、兵庫県/米国1例、モンゴル1例、米国1例

*第11週の1例、第12週の6例とともに保育園関連の集団感染、

**第11週の63例、第12週の8例とともに、同一修学旅行関連の集団感染

年齢群: 1歳(1例) 3歳(1例) 6歳(1例) 8歳(1例) 10代(2例) 20代(2例) 30代(1例) 50代(3例) 60代(1例) 70代(1例)

血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(5例) O157 VT2(4例) O26 VT1(2例) O126 VT1(1例) O128 VT1・VT2(1例) 不明(1例)

腸チフス2例

感染地域: インド2例

4類感染症

E型肝炎1例

感染地域: 国内(都道府県不明)

感染源: 不明

A型肝炎2例

感染地域: 兵庫県2例

デング熱1例

感染地域: トンガ

マラリア1例

三日熱_感染地域: イラン

レジオネラ症6例(肺炎型6例)

感染地域: 兵庫県2例、岩手県/宮城県1例(温泉)、大阪府1例、国内(都道府県不明)1例、ロシア1例

年齢群: 50代(3例) 60代(1例) 80代(2例)

5類感染症

アメーバ赤痢10例(腸管アメーバ症6例、腸管外アメーバ症2例、腸管及び腸管外アメーバ症2例)

感染地域: 北海道2例、東京都2例、千葉県1例、愛知県1例、大阪府1例、山口県1例、国内(都道府県不明)1例、インドネシア1例

感染経路: 経口感染1例、性的接触2例(同性間2例)、不明7例

急性脳炎1例 病原体不明__年齢群: 2歳

クロイツフェルト・ヤコブ病3例(孤発性プリオン病古典型2例、遺伝性プリオン病家族性1例)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例

年齢群: 30代(1例)、50代(1例)

後天性免疫不全症候群13例(無症候9例、その他1例、AIDS 3例)

感染地域: 国内8例、韓国1例、タイ1例、国内・国外不明3例

感染経路: 性的接触9例(異性間3例、同性間5例、異性/同性間1例)、静注薬物使用1例、不明3例

ジアルジア症2例 感染地域: 千葉県1例、パキスタン1例

梅毒7例(早期顕症1期2例、晩期顕症2例、無症候3例)

バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例(遺伝子型: *VanC*__菌検出検体: 血液)

風しん4例(検査診断例3例、臨床診断例1例)

感染地域: 東京都1例、神奈川県1例、岡山県1例、大分県1例

年齢群: 4歳(1例)、25 ~ 29歳(1例)、50代(1例)、60代(1例)

麻しん333例(麻しん(検査診断例78例、臨床診断例236例)、修飾麻しん(検査診断例19例))

感染地域: 国内333例

国内の多い感染地域: 神奈川県115例、北海道32例、広島県29例、東京都25例、福岡県19例、埼玉県12例、愛知県11例

年齢群: 0歳(24例)、1歳(15例)、2歳(3例)、3歳(2例)、4歳(3例)、5 ~ 9歳(24例)、10 ~ 14歳(55例)、15 ~ 19歳(74例)、20 ~ 24歳(56例)、25 ~ 29歳(38例)、30 ~ 34歳(20例)、35 ~ 39歳(10例)、40代(7例)、50代(2例)

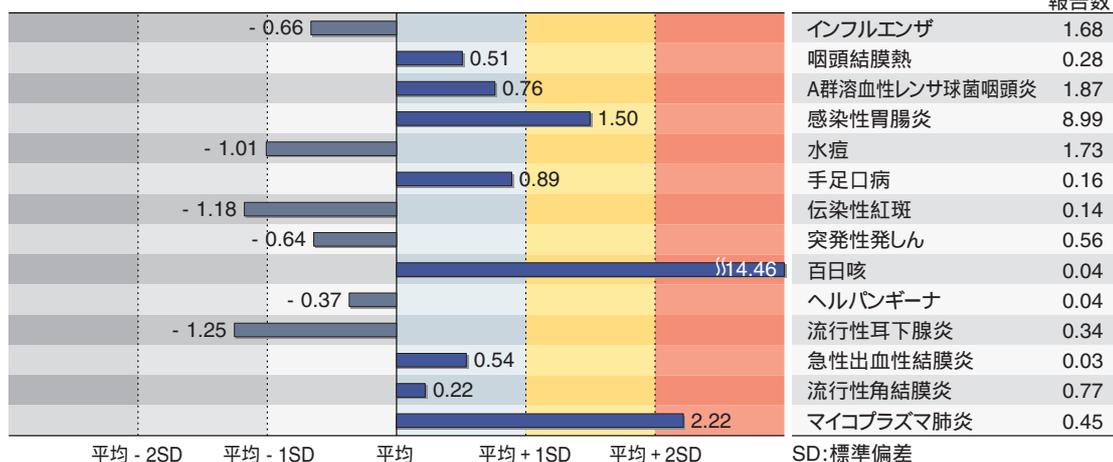
累積報告数: 5,083例(麻しん(検査診断例1,369例、臨床診断例3,301例)、修飾麻しん(検査診断例413例))

(補)他に2008年第12週までに診断されたものの報告遅れとして、E型肝炎1例(感染地域(感染源): 愛知県(いのしし肉))、エキノコックス症1例(多包条虫__感染地域: 北海道)、マラリア1例(熱帯熱__感染地域: ギニア)、急性脳炎3例(A型インフルエンザウイルス1例(0歳 . 死亡)、単純ヘルペスウイルス1型1例(0歳)、病原体不明1例(19歳))、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例(50代(1例)、70代(3例)、80代(1例))、バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例(遺伝子型: *VanB* 2例__菌検出検体: ともに便、遺伝子型不明1例__菌検出検体: 腹水)、風しん6例(検査診断例2例、臨床診断例4例 . 感染地域: 岡山県2例、東京都1例、大阪府1例、広島県1例、福岡県1例 . 年齢群: 0歳(1例)、7歳(1例)、10 ~ 14歳(1例)、25 ~ 29歳(1例)、35 ~ 39歳(2例))などの報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第13週)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。

インフルエンザ

定点当たり報告数は第6週以降減少が続いている。都道府県別では沖縄県(13.0)、佐賀県(5.6)、長崎県(5.3)、宮崎県(4.9)、愛媛県(4.4)、福岡県(3.8)が多い。

小児科定点報告疾患

RSウイルス感染症は409例の報告があり、報告数は微増した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約76%を占めている。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では長崎県(0.75)、富山県(0.72)、広島県(0.61)が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別では鳥取県(4.4)、山口県(3.5)、山形県(3.4)が多い。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別では宮崎県(16.7)、大分県(15.7)、石川県(14.0)、熊本県(13.6)が多い。

水痘の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では沖縄県(5.8)、和歌山県(3.1)、福岡県(3.1)が多い。

手足口病の定点当たり報告数は微増した。都道府県別では宮崎県(1.11)、鳥取県(1.05)、鹿児島県(1.02)が多い。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は微増した。都道府県別では大分県(0.69)、新潟県(0.61)、岩手県(0.44)が多い。

百日咳の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では福井県(0.32)、千葉県(0.15)、沖縄県(0.15)、広島県(0.14)が多い。

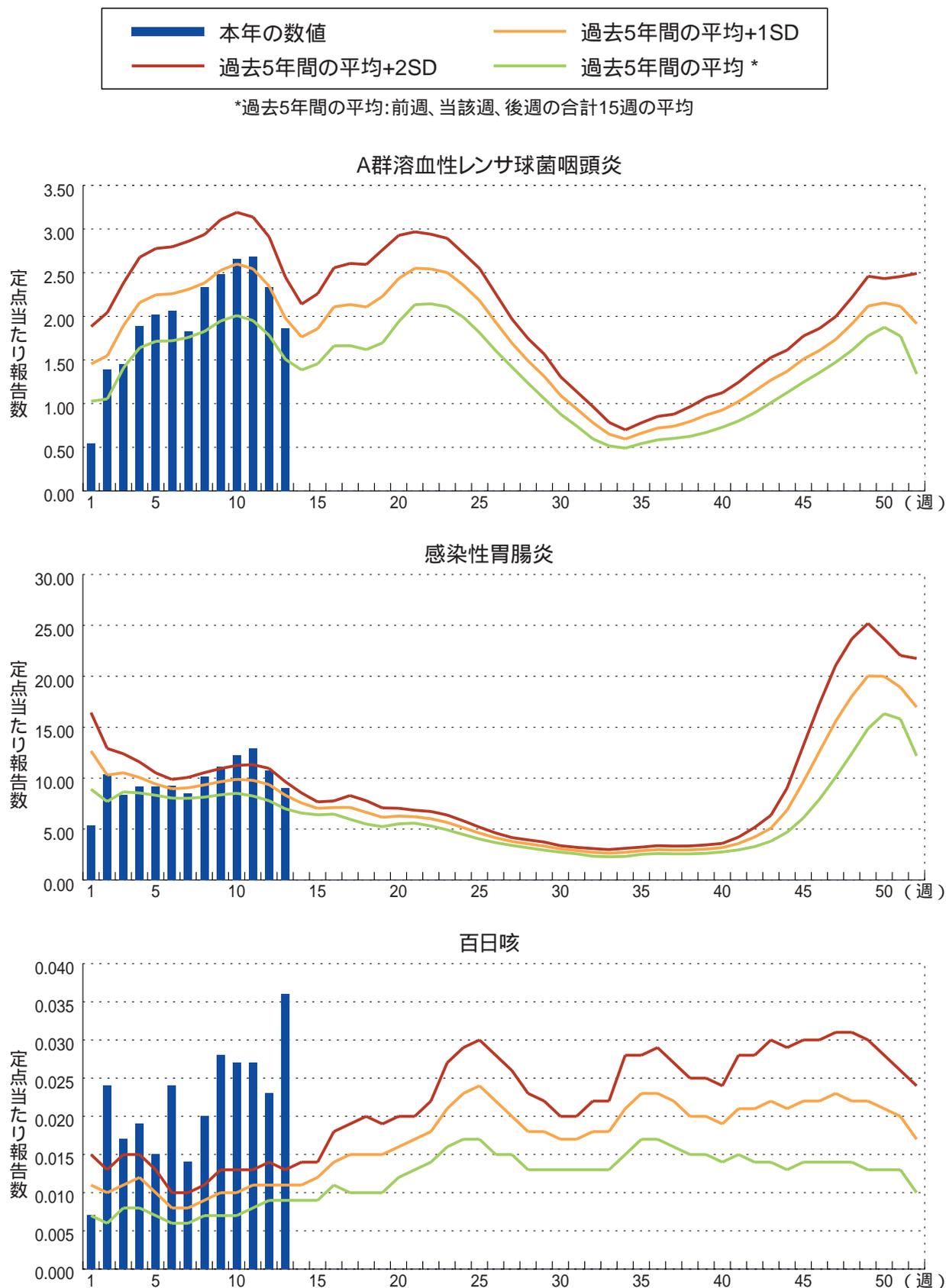
ヘルパンギーナの定点当たり報告数は微減した。都道府県別では熊本県(0.40)、山口県(0.22)、大分県(0.14)が多い。

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では秋田県(2.14)、佐賀県(1.61)、高知県(1.23)が多い。

基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では沖縄県(4.9)、福島県(4.1)、宮城県(2.3)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2008年第1 ~ 13週)
 青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





注目すべき感染症

百日咳

百日咳は、好気性のグラム陰性桿菌である百日咳菌(*Bordetella pertussis*)の感染を原因とする急性の呼吸器感染症である。特有のけいれん性の咳発作(痙咳発作)を特徴としており、母親からの移行抗体が有効に働かないために乳児期早期から罹患する可能性があり、ことに生後6カ月以下では死に至る危険性がある疾患である。通常は感染後7～10日間の潜伏期間を経て発症するが、臨床経過は(1)カタル期、(2)痙咳期、(3)回復期の3つに分けられている。百日咳はいずれの年齢でも罹患するが、小児が中心とされており、1950年に百日咳(P)ワクチンが導入されるまでは、わが国でも乳幼児を中心に年間10万例以上の罹患患者があり、その約10%が死亡していたといわれている。その後ワクチンの改良・普及と乳児期の接種率の上昇によって、発生報告数は大きく減少したが、最近では年長者からの報告割合が増加してくると共に、発生報告数そのものも増加に転じている。主な感染経路は発症患者の鼻咽頭や気道分泌物による飛沫感染と接触感染であるが、特に成人の発生例は咳が長期にわたって持続するものの、乳幼児にみられるような重篤な痙咳性の咳嗽を示すことは稀であり、症状が典型的ではないために診断が見逃されやすく、感染源となって周囲へ感染を拡大してしまうこともあり、注意が必要である。治療薬としての抗生物質はマクロライド系抗菌薬が第一選択であるが、セフェム系が処方されることもある。早期に抗菌薬を処方すれば、症状の軽減と菌排出期間(無治療の場合は3週間前後)の短縮が期待できる。

現在百日咳は、感染症発生動向調査では全国約3,000カ所の小児科定点からの報告数に基づいて患者発生状況の分析が行われている。2008年の百日咳の週別の定点当たり報告数は、2001年以降の過去5年間の同時期と比較して高い場合が多くなっている(図1)。第13週の定点からの患者報告数は109例であり、小児科定点数がほぼ3,000カ所に達した2000年以降の同時期の最高値(2000年第13週:患者報告数73)を大きく上回った。都道府県別では千葉県19例、大阪府14例、広島県10例、愛知県8例、福井県7例、福岡県6例の順であり、大都市圏からの報告が目立つ(図2)。また、第1～13週までの累積報告数は851例(定点当たり累積報告数0.28)であり、2000年以降の同時期までの累積報告数と比較しても、これまで最も多かった2000年の累積報告数(689例)を上回っている。都道府県別にみると、千葉県150例、福岡県70例、大阪府69例、広島県58例、愛知県56例、北海道40例の順であり、特に千葉県は2007年から報告数の多い状態が続いている(図3)。2000年以降の年間の累積報告数をみると、最も報告数が多かったのは2000年(3,804例)であり、次いで2007年(2,926例)の順であるが(図4)現在の患者発生状況が継続すれば、2008年の報告数は2000年以降では最も多くなる可能性が高い。2000年～2008年まで(2008年は第13週まで)の年間の累積報告数の年齢別割合をみると、0歳児、1歳児を中心とした乳幼児からの報告割合は年々低下がみられている一方で、小児科定点からの報告ではあるものの、20歳以上の報告割合は年々増加しており、2008年は、13週までの報告ではあるが、20歳以上の割合は36.5%にまで達している(図5)。

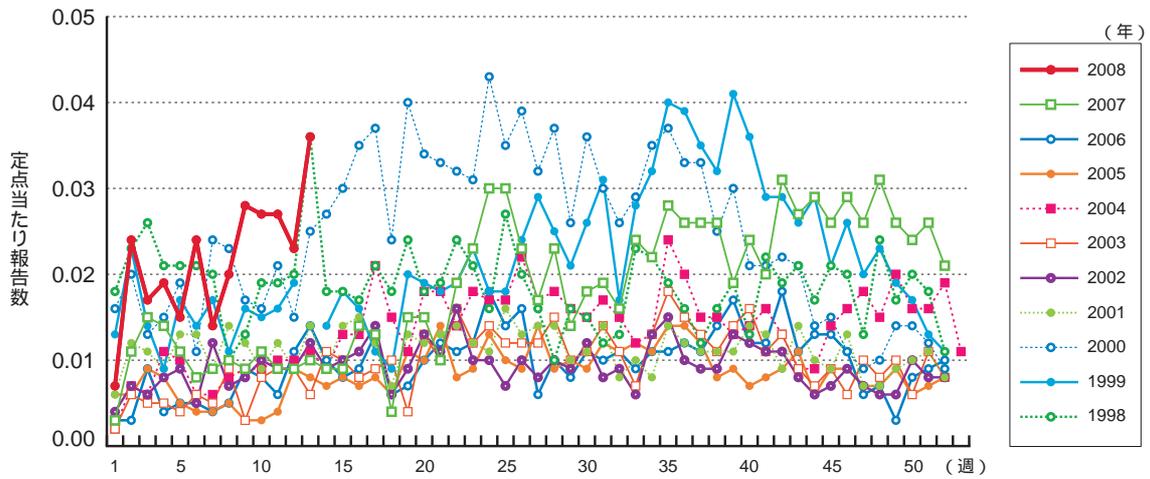


図1. 百日咳の年別・週別発生状況(1998 ~ 2008年第13週)

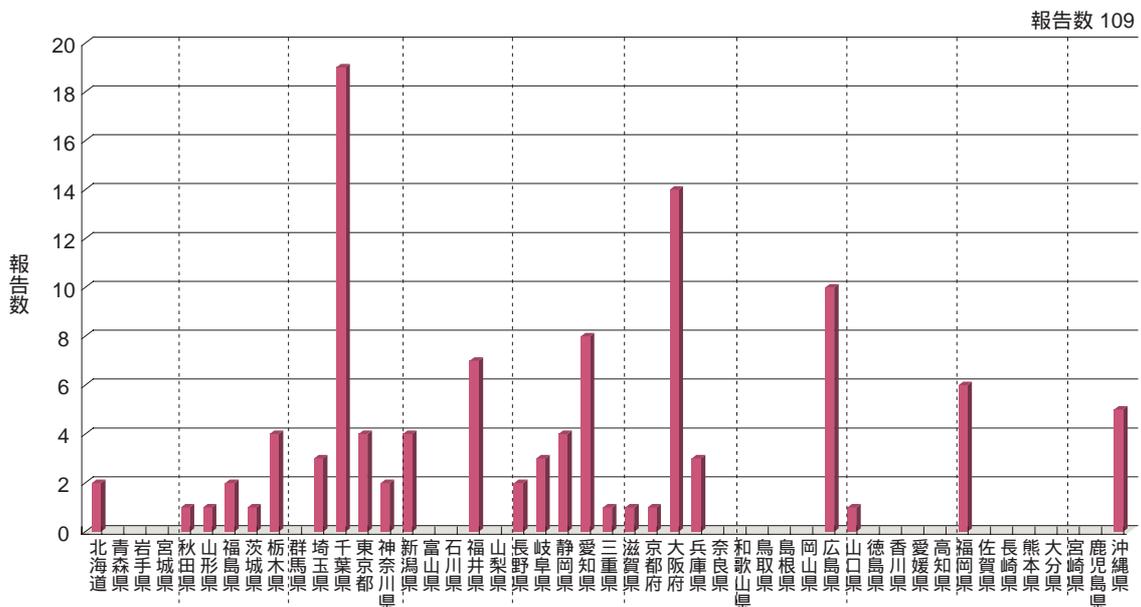


図2. 百日咳の都道府県別報告状況(2008年第13週)

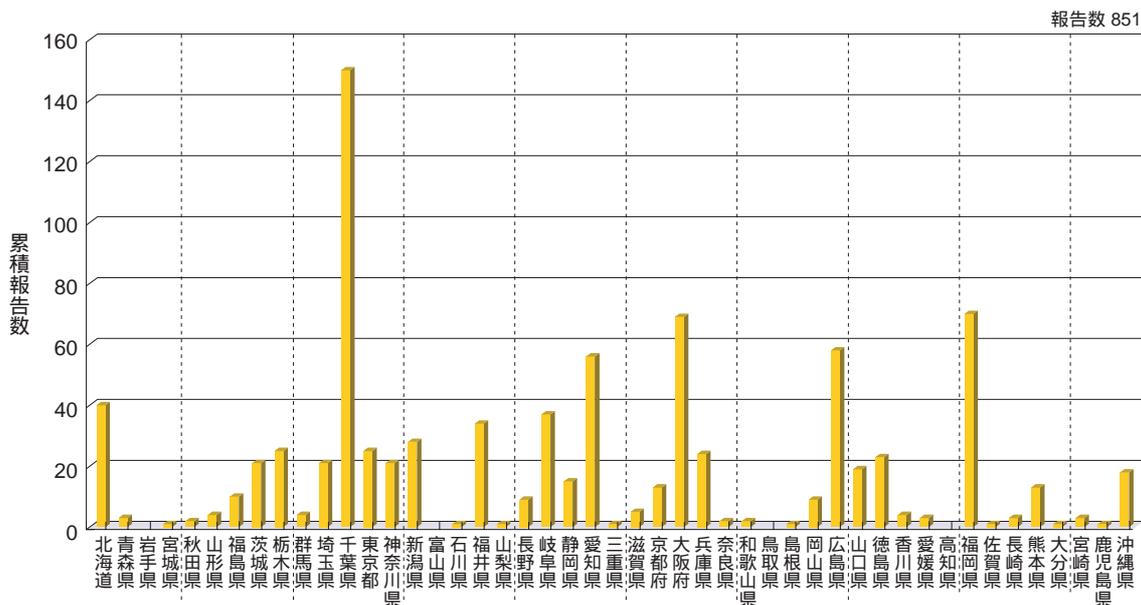


図3. 百日咳の都道府県別累積報告状況(2008年第1～13週)

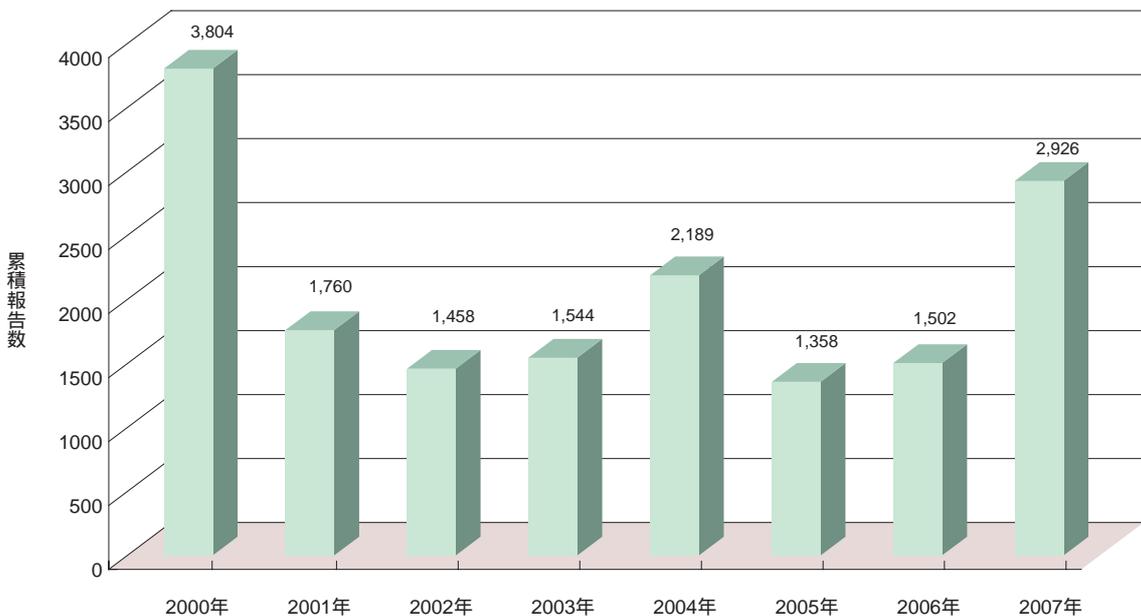


図4. 百日咳の累積報告数年別推移(2000年～2007年)

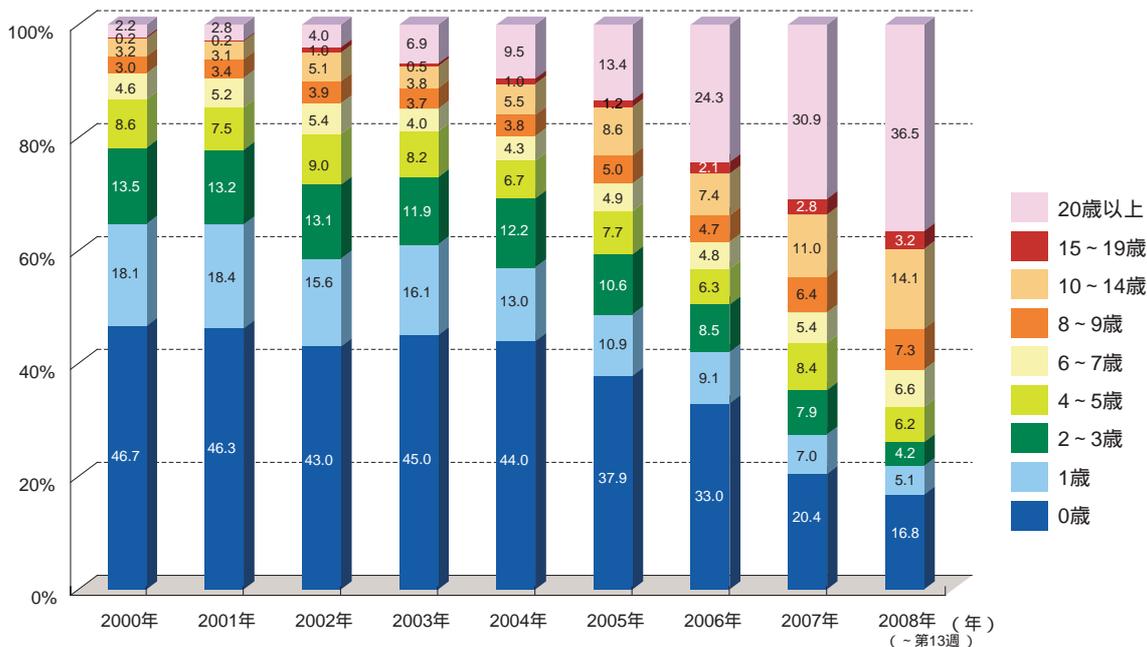


図5. 百日咳の報告症例の年別・年齢群別割合(2000年 ~ 2008年第13週)

乳幼児に対するジフテリア・百日咳・破傷風(DPT)混合ワクチンの普及により、かつては0歳児を中心に多数の発病者及び死亡者がみられていた百日咳の患者発生数は近年大きく減少した。しかしながら最近では、大学等の小児以外の集団生活施設における集団発生例が報告されるようになってきている(病原微生物検出情報 : Vol.29 No.5 p.4-5 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/337/dj3372.html>、同p.6-7 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/337/dj3373.html>)。また、感染症発生動向調査においても小児科定点からの報告ではあるにもかかわらず、成人例の報告割合が無視できないほどに増加し、2008年はまだ13週までの調査ではあるが、累積報告数に占める成人の割合は年々大きく増加してきている。その一方で、近年は患者報告数そのものは少ない状況で推移していたが、2006年以降再び増加してきており、2008年はこれまでのところ、第1週から当該週までの報告数が2000年以降では最も多い状態が続いている。百日咳の発生動向には今後とも注意深い観察が必要であることはいうまでもないことであるが、現在の小児科定点のみからの発生動向調査では、大きく増加してきていると推定される成人層の患者発生状況を正確に把握することは困難である。百日咳の発生動向の全体像を把握するためには、全ての年齢層を対象とした新たなサーベイランスが必要であると思われる。

病原微生物検出情報(月報)Vol.29 No.3 < 特集 > 百日咳 2005 ~ 2007(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/337/tpc337-j.html>) 先併せてご参照ください。



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

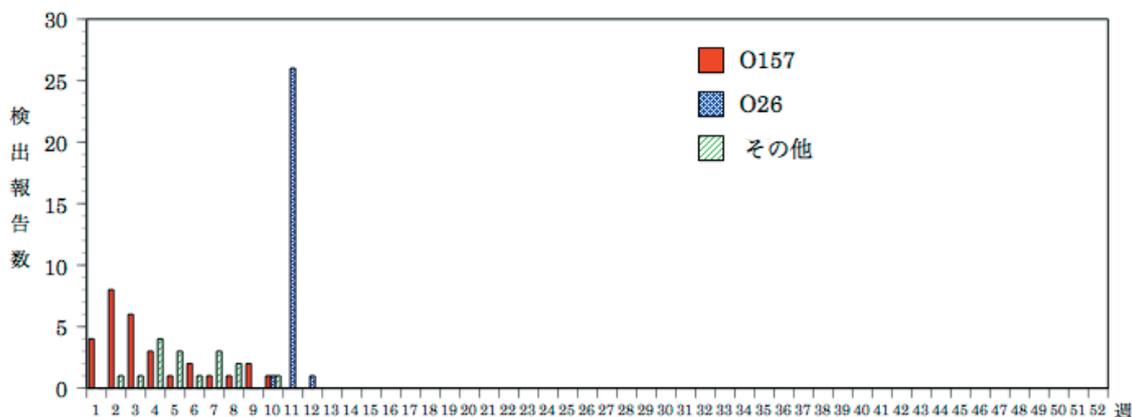
各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2008年4月3日現在報告分)

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2008年

2008年第10～11週に佐賀県でオーストラリアへ修学旅行に行った集団からO26が27件検出されている。第12週に富山県でもオーストラリア、メキシコ、米国への渡航者1例からO26が検出されている。第1～13週までの検出総数は73件で、O157が13都府県から29件、O26が2県から28件、その他の血清型が5都道府県から16件報告されている。

週別Vero毒素産生性大腸菌分離報告数、2008年 (病原微生物検出情報：2008年4月3日現在報告数)

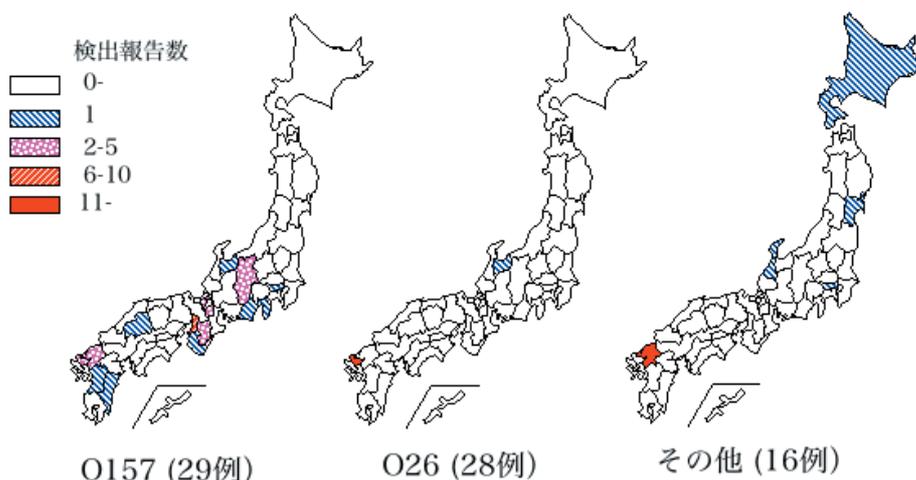


*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



都道府県別Vero毒素産生性大腸菌分離報告状況、2008年

(病原微生物検出情報：2008年4月3日現在報告数)



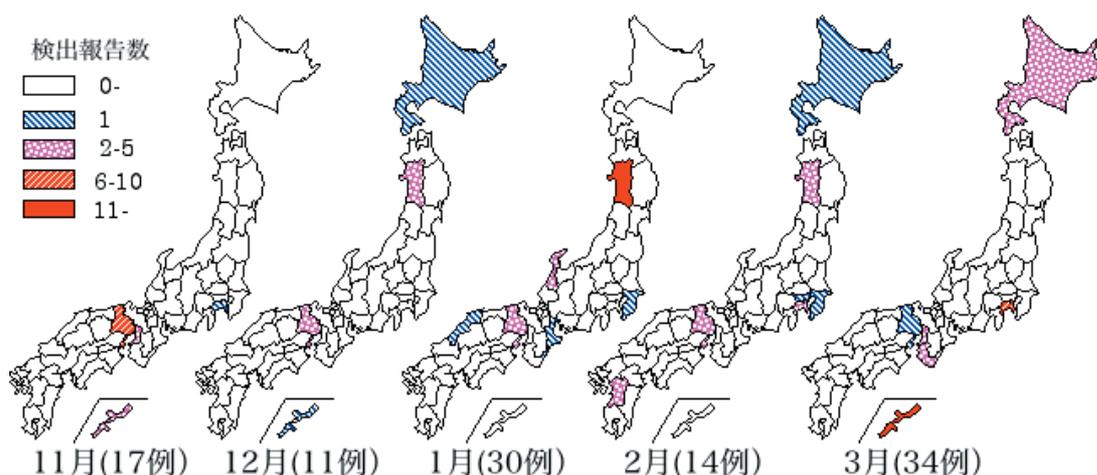
*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



麻疹ウイルス 2008年

2008年に入って秋田県25件、沖縄県16件、神奈川県、兵庫県各8件、和歌山県5件、大阪府4件、北海道3件、千葉県、石川県、熊本県各2件、東京都、三重県、島根県各1件、計78件の麻疹ウイルスの分離・検出が報告されている。このうち、遺伝子型別まで実施された27件中26件ではD5型が検出されており、他にはA型1件(ワクチン接種後2週間以内に採取された検体から)が検出されている(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/measles.html>)。

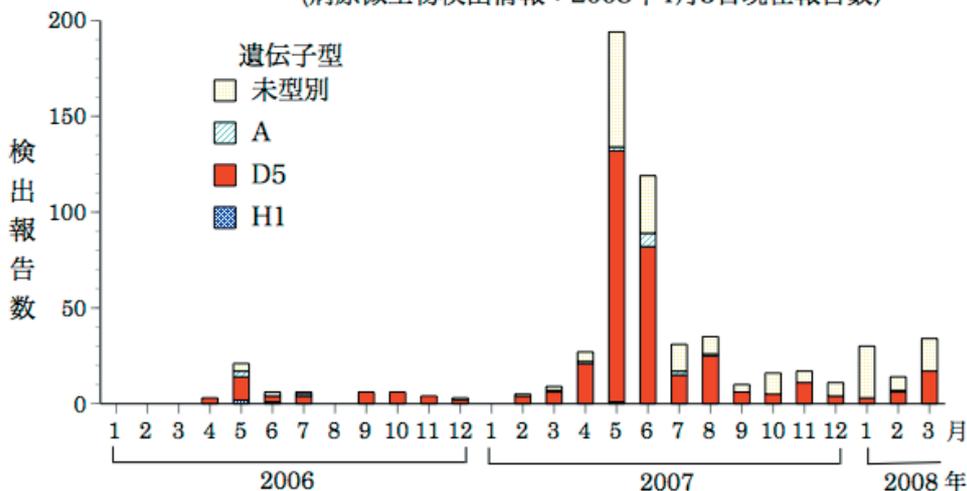
月別都道府県別麻疹ウイルス分離・検出報告状況、2007年11月～2008年3月
(病原微生物検出情報：2008年4月3日現在報告数)



*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



月別麻疹ウイルス分離・検出報告数、2006年1月～2008年3月
(病原微生物検出情報：2008年4月3日現在報告数)



*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



インフルエンザウイルス 2007/08シーズン

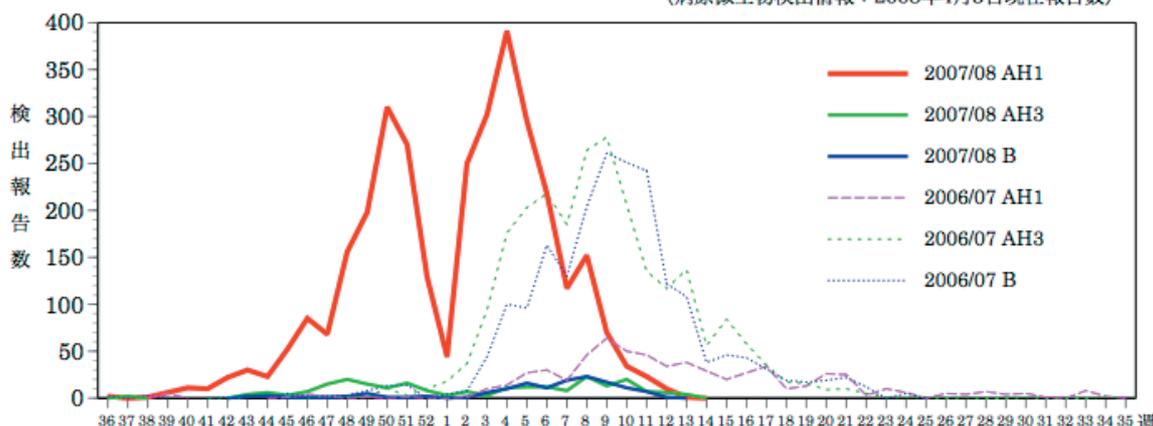
2007/08シーズンはAH1亜型の分離・検出が増加している。2007年第36週～2008年第13週までに、第50週と第4週をピークに47都道府県から3,280件が報告されている(分離が3,092件、PCRのみでの検出が188件)。直近の第10～13週の4週間では、長野県10件、岩手県7件、北海道、兵庫県各5件、茨城県、神奈川県、広島県、佐賀県、沖縄県各3件など25道府県から計68件が報告されている。

AH3亜型は富山県から81件、その他31都道府県から155件、計236件の分離・検出が報告されている。直近の第10～13週の4週間では、福岡県7件、北海道6件、兵庫県5件、佐賀県4件、長野県、愛知県各2件など、17道県から計37件が報告されている。

B型は36都道府県から山形系統93件、ビクトリア系統33件、不明(PCRでの型別)2件、計128件の分離とPCRでの検出13件が報告されている。直近の第10～13週の4週間では、兵庫県、沖縄県各2件、北海道、岩手県、神奈川県、新潟県、山梨県、愛知県、高知県、福岡県各1件、計12件の山形系統の分離が報告されている。一方、ビクトリア系統の分離が第10週に高知県2件、愛媛県1件、第11週に高知県2件、茨城県1件、計6件報告されている。

週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移、2006/07 & 2007/08シーズン

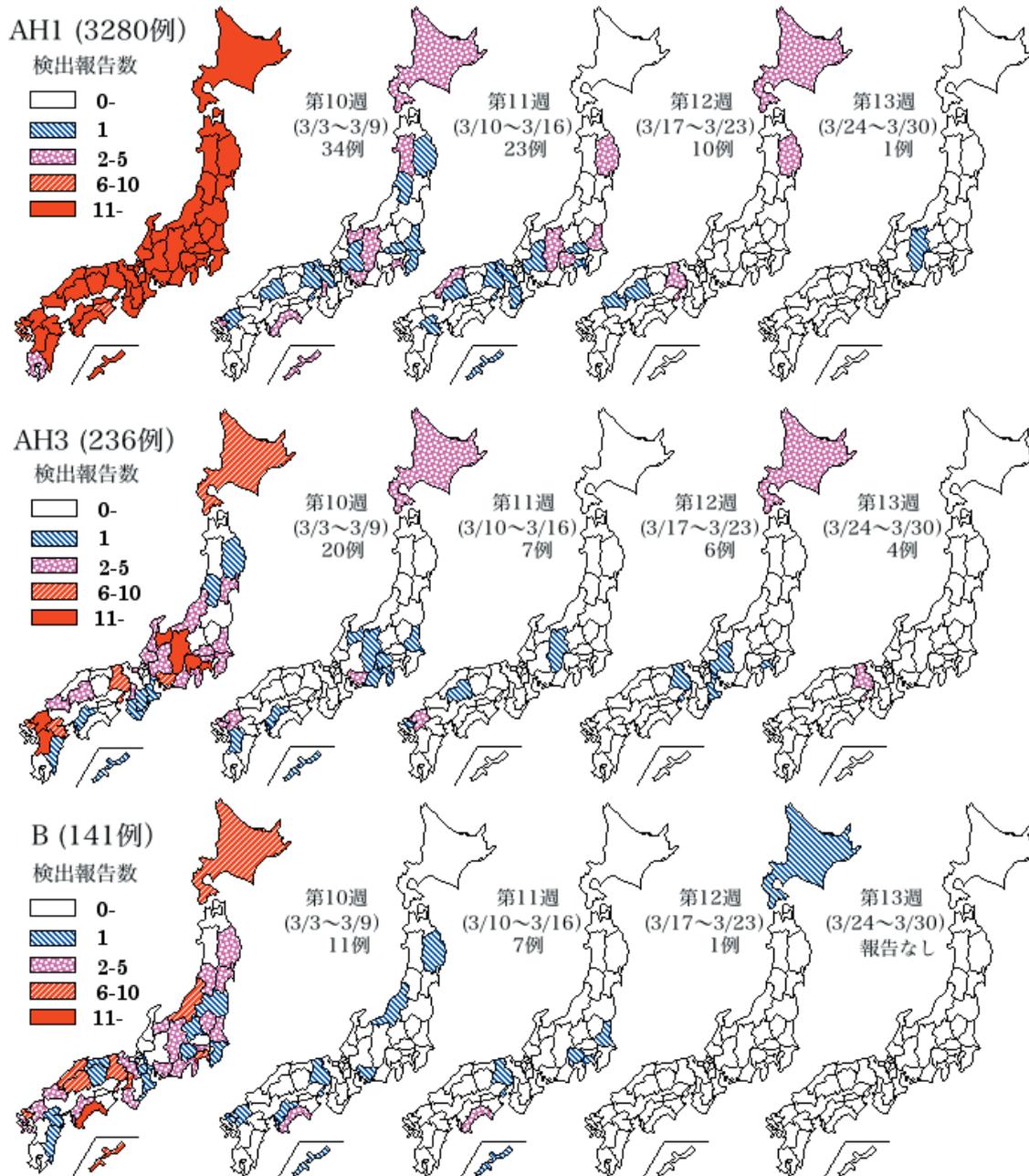
(病原微生物検出情報：2008年4月3日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2007/08シーズン
(病原微生物検出情報：2008年4月3日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



感染性胃腸炎関連ウイルス 2007/08シーズン

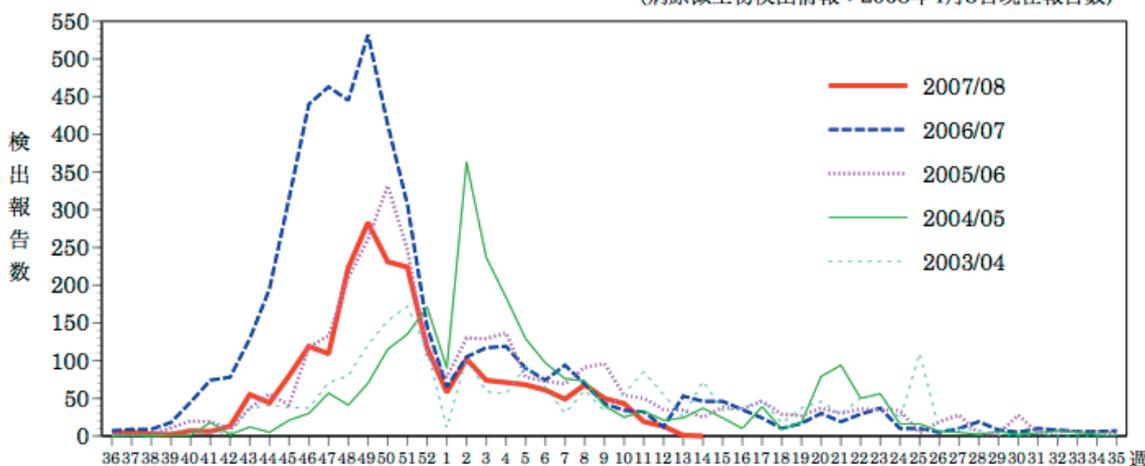
2007/08シーズンのSRSV(ノロウイルスとサポウイルス)検出は2006/07シーズンに比べると半減し、2005/06シーズンと同様に推移しているが、前シーズンに比べ、ノロウイルスgenogroup Iとサポウイルスの検出が増加している。2007年第36週 ~ 2008年第13週までにノロウイルスgenogroup I 139件、ノロウイルスgenogroup II 1,739件、サポウイルス222件の検出が報告されている。

また、ノロウイルスgenogroup IIによる集団感染335事例、genogroup IとII 12事例、genogroup I 33事例、genogroup不明30事例、計410事例が報告されている。genogroup IIの遺伝子型別まで実施された145事例中125事例ではGII/4が検出されている。推定感染経路は人 人感染が疑われる胃腸炎集団発生が216事例、食中毒および有症苦情が151事例、海外旅行での集団感染が1事例、その他・詳細不明42事例である(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/noro.html>)。

この他、A群ロタウイルスの検出が第2週以降増加しており、24都府県から185件報告されている。直近の第10 ~ 13週では佐賀県からG3型4件、埼玉県からG9型1件、宮城県、秋田県、千葉県、神奈川県、京都府、大阪府、奈良県、島根県、高知県、福岡県、熊本県、大分県から型不明46件が報告されている。

週別SRSV (ノロウイルス、サポウイルス) 検出報告数、2003/04~2007/08シーズン

(病原微生物検出情報：2008年4月3日現在報告数)

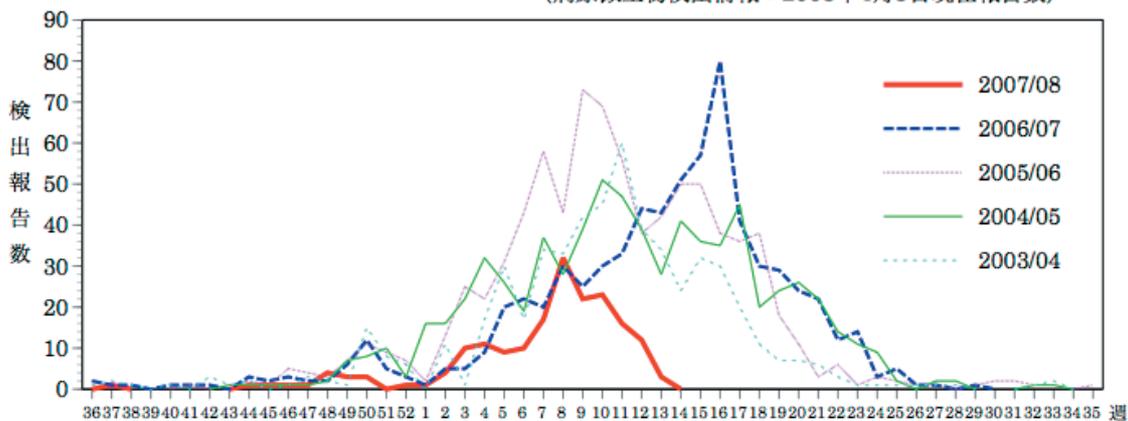


* 各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した



週別ロタウイルス検出報告数、2003/04~2007/08シーズン

(病原微生物検出情報：2008年4月3日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した



Infectious Agents Surveillance Report



ジアルジア症 1999年4月 ~ 2006年3月(2007年7月31日現在)

ジアルジア症は、原虫の1種であるランブル鞭毛虫(*Giardia lamblia*; *Giardia intestinalis*, *Lambliia intestinalis*と記されることもある)の感染によって起こる下痢性疾患である。ランブル鞭毛虫は世界的に広く分布するが、特に熱帯・亜熱帯地域の衛生環境が不良な地域に多く、患者・感染者の糞便中に排出された原虫の嚢子に汚染された水や食品を介して、あるいは手や器物を介してなどにより経口感染を起こす。途上国を中心とした地域への渡航者下痢症の主要な原因のひとつである。また最近では、男性同性愛者での性的接触による感染も注目されている。

感染しても無症状のことも多いが、2~8週間の潜伏期ののちに発症すると、食欲不振、腹部不快感、下痢、腹痛などの症状を示す。下痢は非血性で、水様または泥状便であるが、脂肪性下痢を示すこともある。排便回数は1日数回~20回以上とさまざまであり、長期化すると、吸収不良症候群により体重減少などを生ずることがある。発熱は多くの場合みられない。胆管や胆のうに侵入して、肝腫大、黄疸、肝機能異常、発熱などを生ずることがある。

ジアルジア症は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(1999年4月施行)に基づき、2003年11月4日までは4類感染症、11月5日以降は5類感染症として、診断したすべての医師に患者の届出(症状を有する者のみが対象で、無症状病原体保有者は届出対象外)が義務付けられ、その発生動向が把握されている。今回は1999年第13週(4月1日から)~2006年第12週(3月26日まで)の報告例について解析する。この期間には、最近数年間の居住地が届出項目とされており、この情報を加えて集計・解析するためである(その後はこの項目がなくなった)。

< 年次報告数、感染地域・居住地域・都道府県別報告数 >

1999年4月1日~2006年3月26日の約7年間に届け出られたジアルジア症は683例であり、感染地域別では、国内298例(43.6%)、国外271例(39.7%)、不明114例(16.7%)であった。年間報告数は毎年100例前後で推移しており、また例年、国内感染例と国外感染例がほぼ1:1の状況がみられた(図1)。

都道府県別では、東京都198例、神奈川県97例、大阪府76例、京都府45例、千葉県31例の順に多く、国内感染例に限ってみても同様であり、概して大都市圏からの報告が多かった(図2)。

居住地が国内の者(559例)に限ってみると、感染地域は国内297例(53.1%)、国外178例(31.8%)、不明84例(15.0%)であり、国内感染が半数以上を占めた。居住地を国外とする者(98例)の感染地域は、国外92例(94%)、不明6例(6%)であった。

感染症法のもとでの届出は、診断時一回のみを原則とされているが、死亡の報告はなかった。

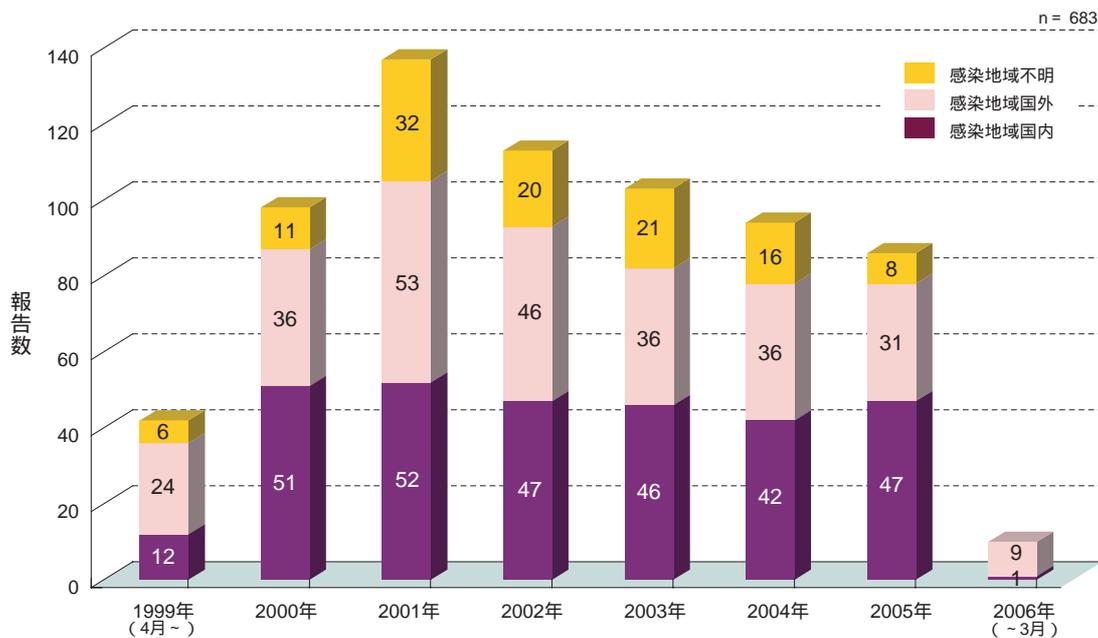


図1. ジアルジア症の感染地域別・年次別報告数推移 (1999年4月～2006年3月)

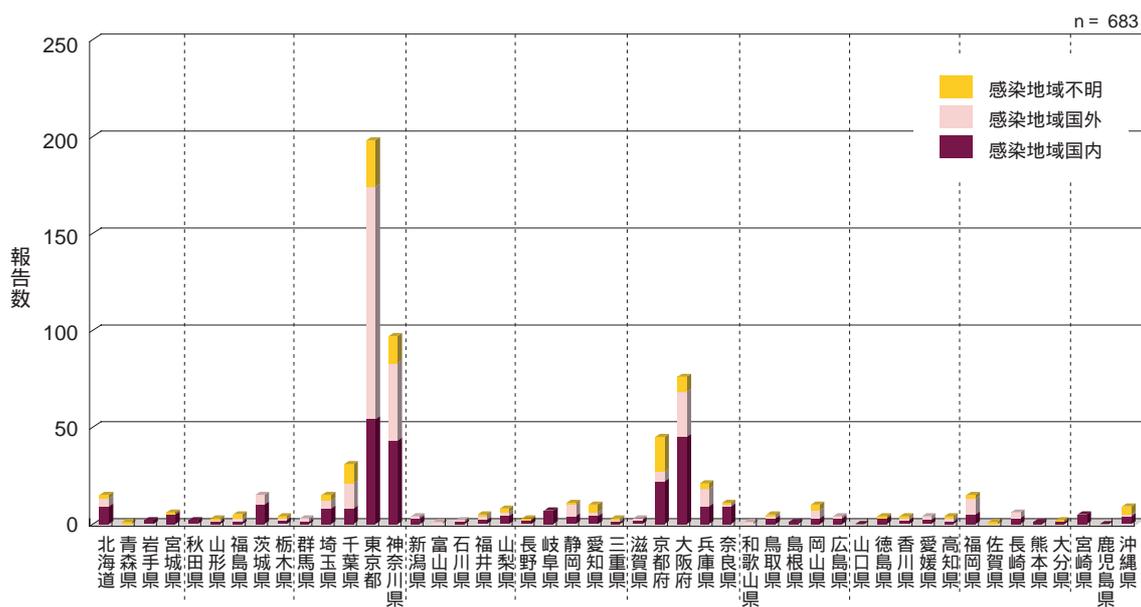


図2. ジアルジア症の感染地域別・都道府県別報告数 (1999年4月～2006年3月)

< 国内感染例 >

国内感染298例における最近数年間の居住地は、国内が297例、不明が1例であった(図3)。

性別は、男性220例、女性78例(男性/女性 = 2.8/1)で、男性が多かった。年齢中央値は44.5歳(1 ~ 91歳)であった。男性220例は、年齢中央値42.5歳(1 ~ 81歳)であり、年齢群別では30代をピークとして20 ~ 60代が大半を占めた(図4)。感染経路としては、不明が103例(47%)と約半数あり、不明以外では、経口感染81例(37%)、性的接触26例(12%)、動物からの感染4例(2%)、接触感染2例(1%)、経口及び性的接触2例(1%)、水系感染(詳細不明)1例、その他(し尿収集)1例であった。性的接触26例の内訳は、異性間8例(他に、経口感染が同時に推定された2例あり)、同性間15例、不明3例であった(図5)。女性78例は、年齢中央値52.5歳(1 ~ 91歳)であり、年齢群別では、50代をピークに20 ~ 60代が多かった(図4)。感染経路としては、男性同様に不明が38例(49%)と約半数あり、不明以外では、経口感染35例(45%)、性的接触2例(3%)、経口及び性的接触1例(1%)、接触感染1例(1%)、動物からの感染1例(1%)であった(図5)。

発病月は、記載があった153例についてみると、6月が最多で、12 ~ 4月に比して、5 ~ 11月がやや多かった(図8)。

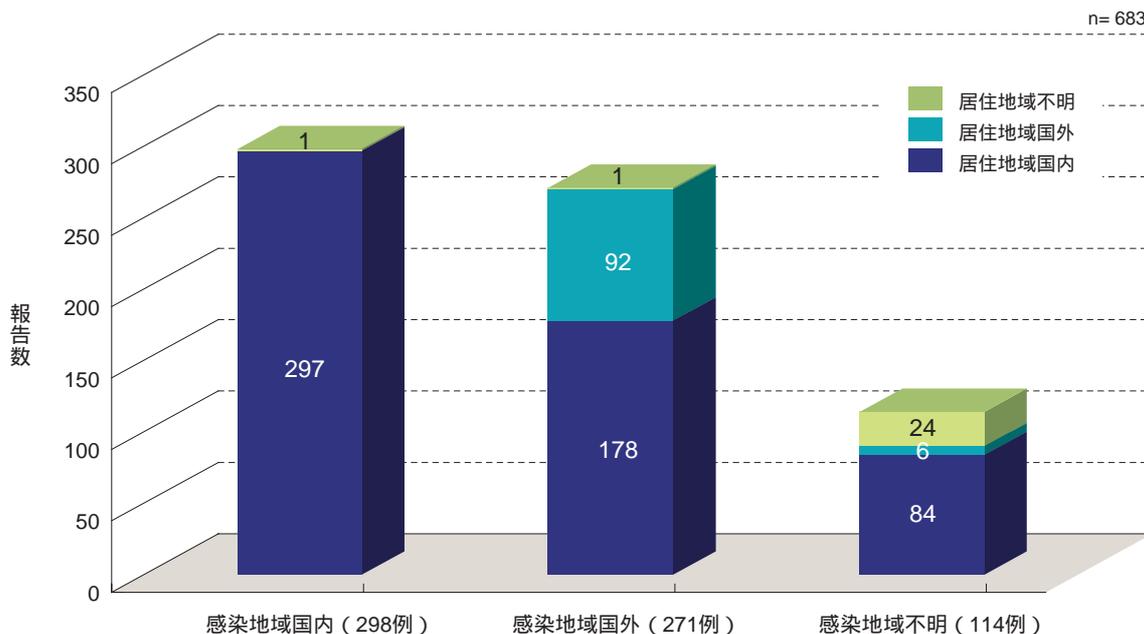
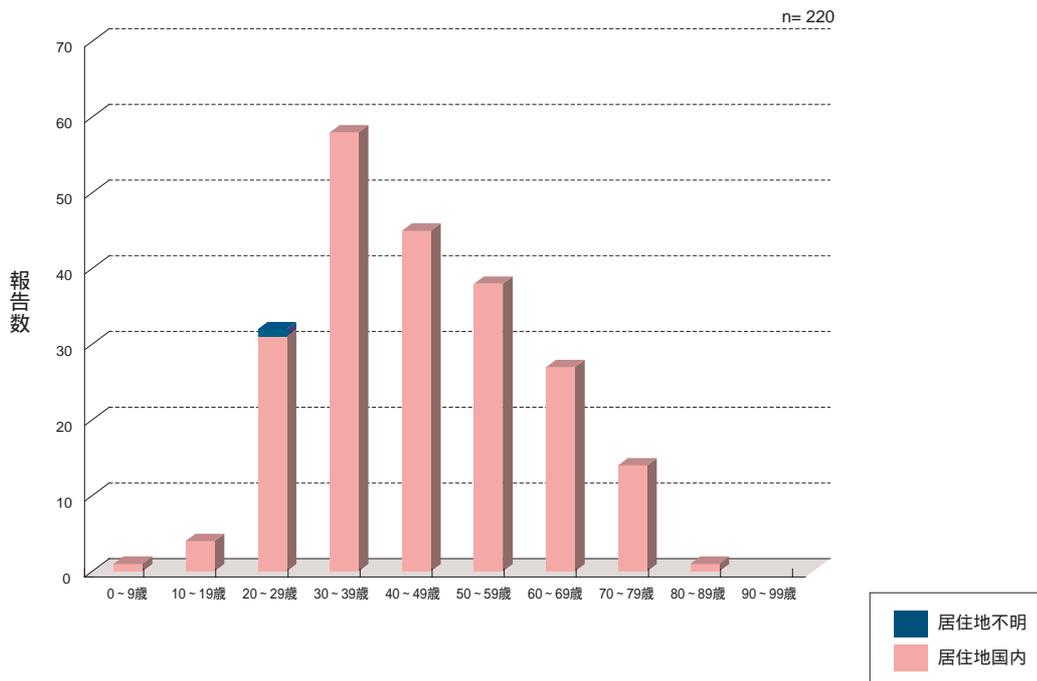


図3. ジアルジア症の居住地域別・感染地域別報告数 (1999年4月 ~ 2006年3月)

男性



女性

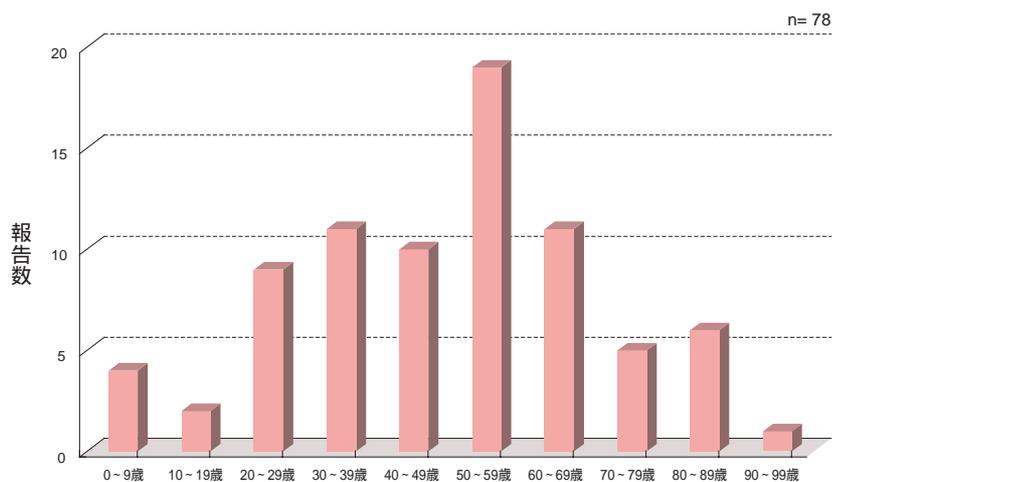
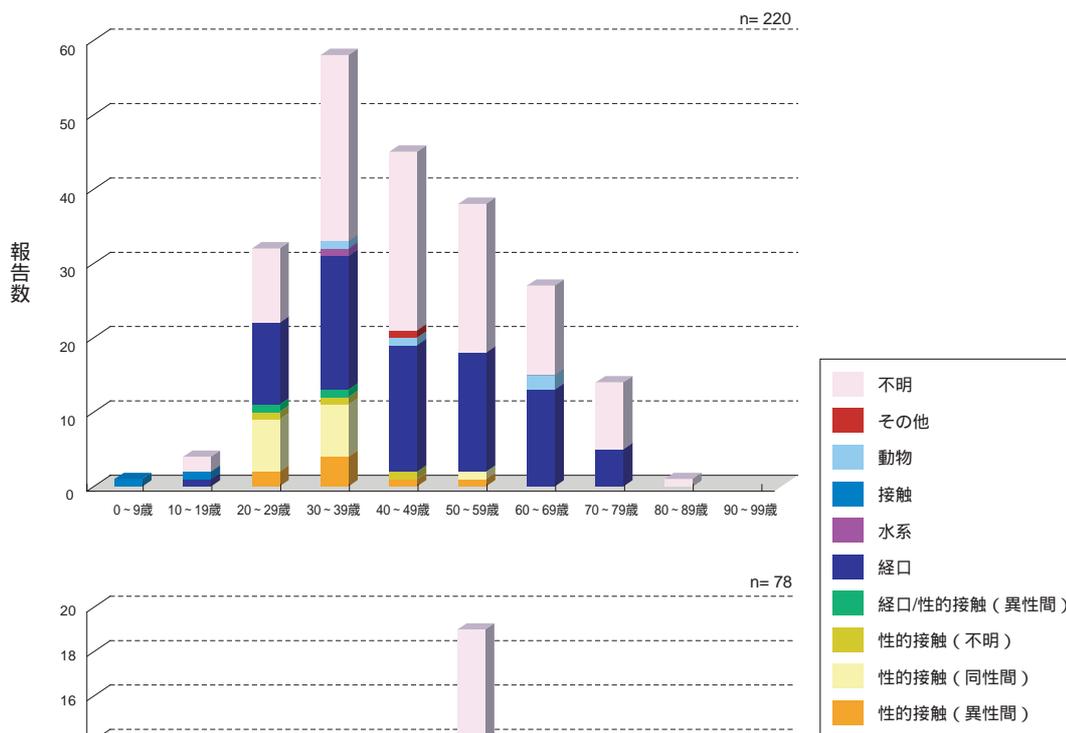


図4. ジアルジア症国内感染例の居住地別・年齢群別報告数
(1999年4月 ~ 2006年3月)

男性



女性

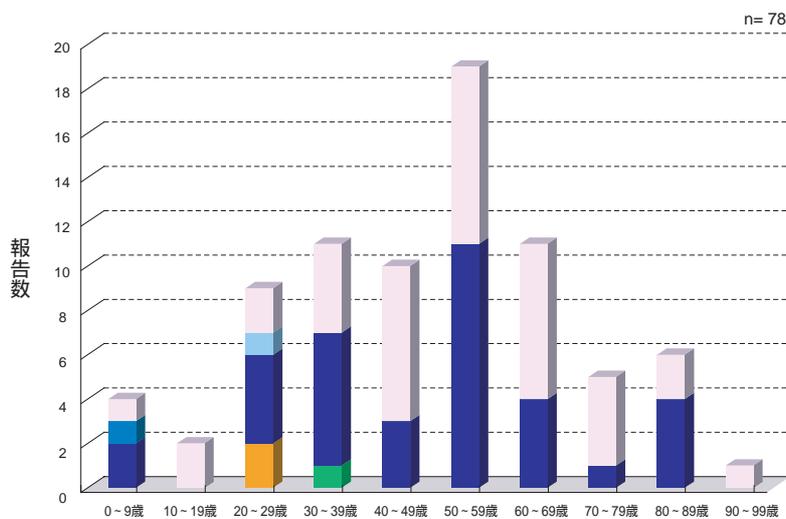


図5. ジアルジア症国内感染例の感染経路別・年齢群別報告数
(1999年4月～2006年3月)

< 国外感染例 >

国外感染271例の居住地は、国内が178例(65.7%)、国外が92例(33.9%)、不明が1例(0.4%)であった。すなわち、日本からの海外渡航によって罹患したと考えられるものが2/3、国外に居住して日本に来て発見されたと考えられるものが約1/3を占めた(図3)。報告内容には、氏名、職業、国籍などは含まれていないので、国外居住者として把握された患者が、日本人の長期出張者か、外国人渡航者かなどの詳細は把握できない。また、感染地域、居住地ともに国外者(92例)は、そのほとんど(87例)が、当該居住国での感染と推定されていた。

性別は、男性194例、女性77例(男性/女性=2.5/1)で、男性が多かった。年齢中央値は31歳(7～78歳)であった。男性194例は、年齢中央値33歳(8～78歳)であり、年齢群別では、20代をピークとして20～50代が大半(91%)を占めたが、これを居住地別にみると、国内を居住地とする者では20代に大きなピークがあるが、国外を居住地とする者では20代より、30～50代の者が多かった(図6)。感染経路としては、経口感染172例(88%)、性的接触(異性間)1例(1%)、不明21例(11%)であった(図7)。女性77例は、年齢中央値27歳(7～62歳)であり、年齢群別では、20代が特に多く、次いで30代であり、20～30代で大半を占めた(図6)。感染経路としては、経口感染70例(91%)、不明が7例(9%)であった(図7)。

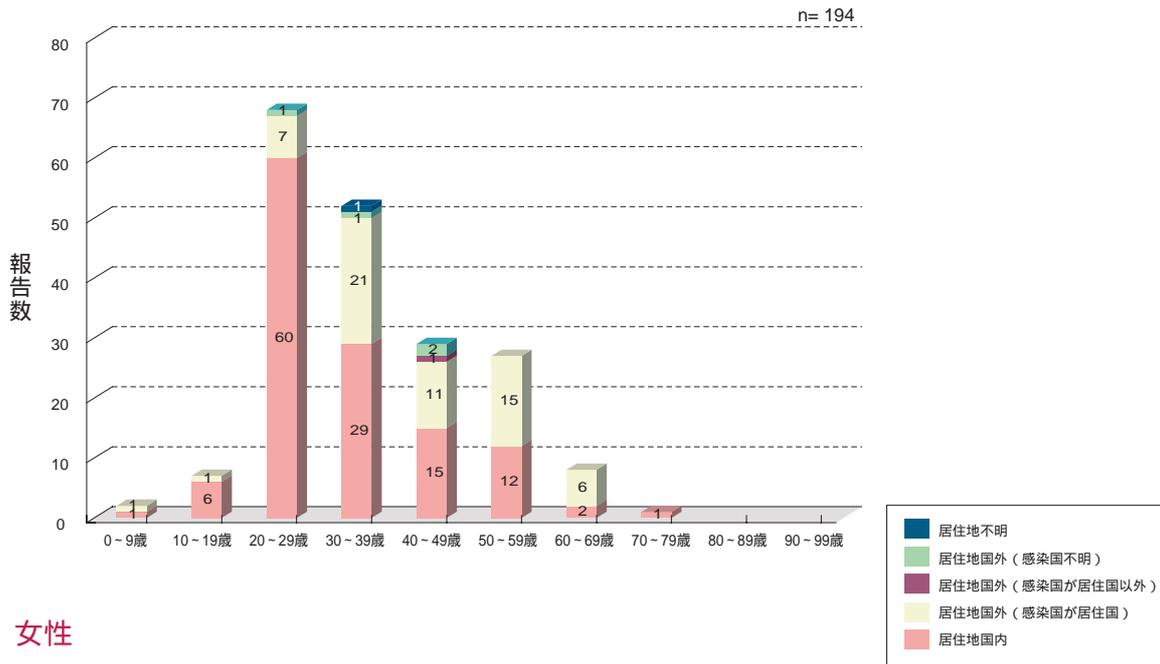
発症月は、記載があった例では、3～4月及び7～9月に比較的多く、長期休暇による渡航の影響が考えられた(図8、図9)。

国外感染271例の感染国を(表)に示した。感染国を地域別に集計すると、アジア201例(74%)が約3/4を占めた。アジアの中では、インド亜大陸/南アジア104例が約半数を占め、次いで東南アジア64例、東アジア21例の順であった。国別では、インド(74例:居住地国内70例、国外4例)、中国(17例:居住地国内15例、国外2例)、フィリピン(16例:居住地国内5例、国外11例)、タイ(15例:居住地国内9例、国外6例)であった。アジア以外では、アフリカ18例、南米11例、中東9例、中米8例、北米5例、欧州4例、大洋州4例の順であった。

< 検査材料 >

診断は顕微鏡下での原虫の確認によるが、検査状況不明の1例を除く682例で確認されており、その検査材料は、便655例(便及び血液の1例を含む)、胆汁7例、大腸液4例、膵液4例、十二指腸液1例、イレウス管1例、不明10例であった。

男性



女性

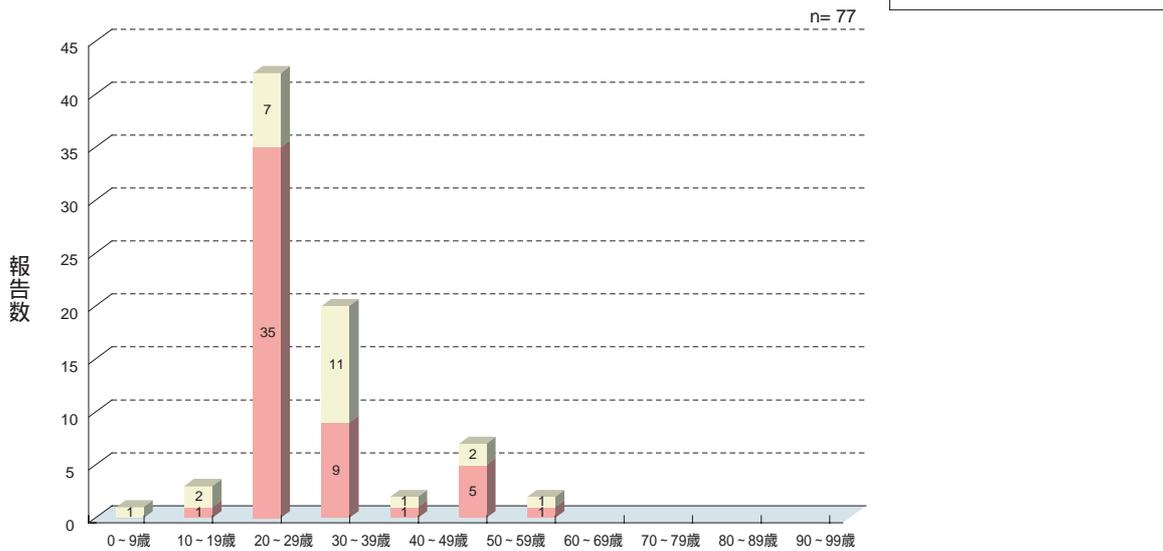
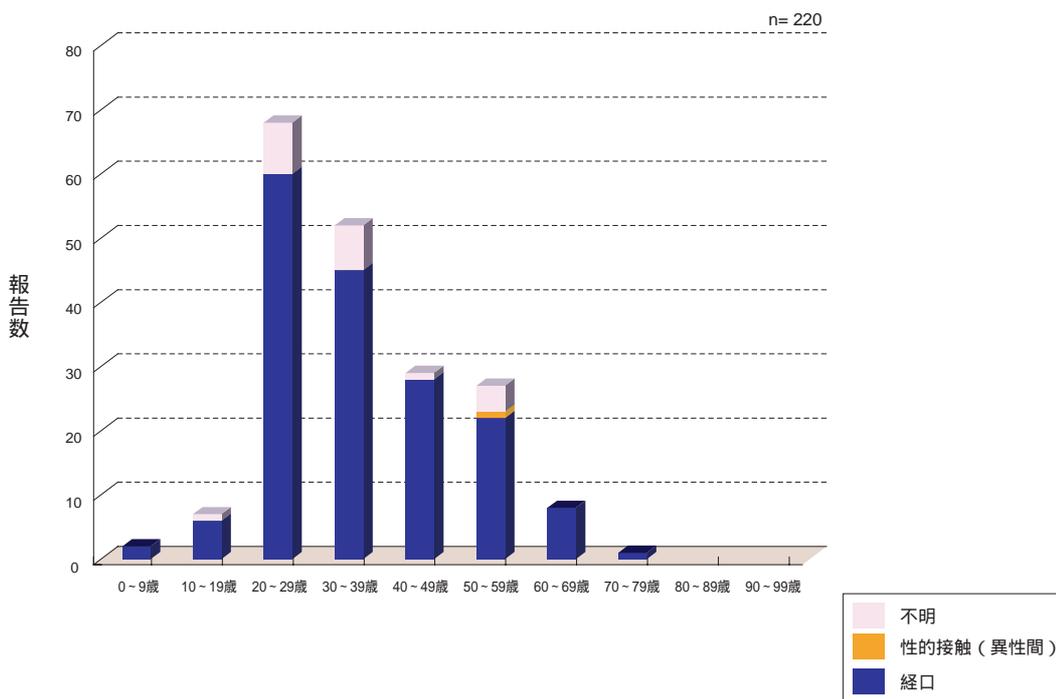


図6. ジアルジア症国外感染例の居住地別・年齢群別報告数 (1999年4月～2006年3月)

男性



女性

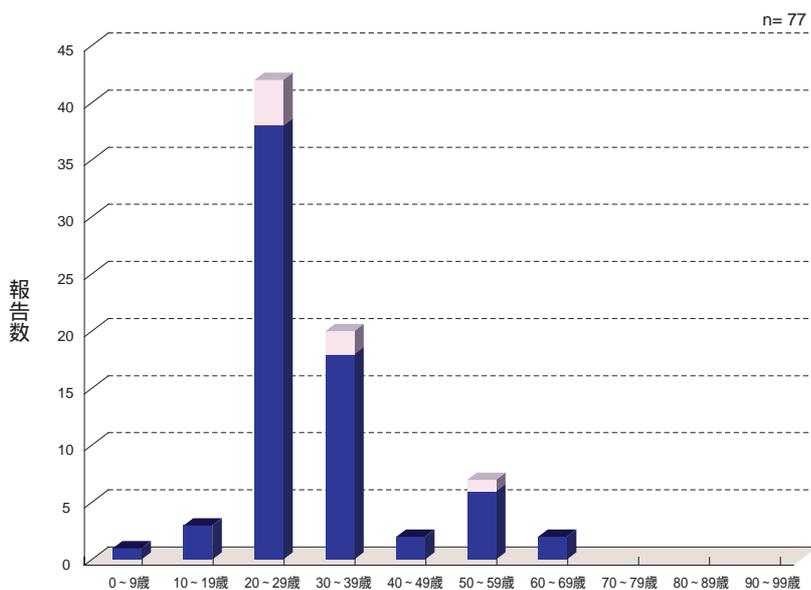


図7. ジアルジア症国外感染例の感染経路別・年齢群別報告数 (1999年4月～2006年3月)

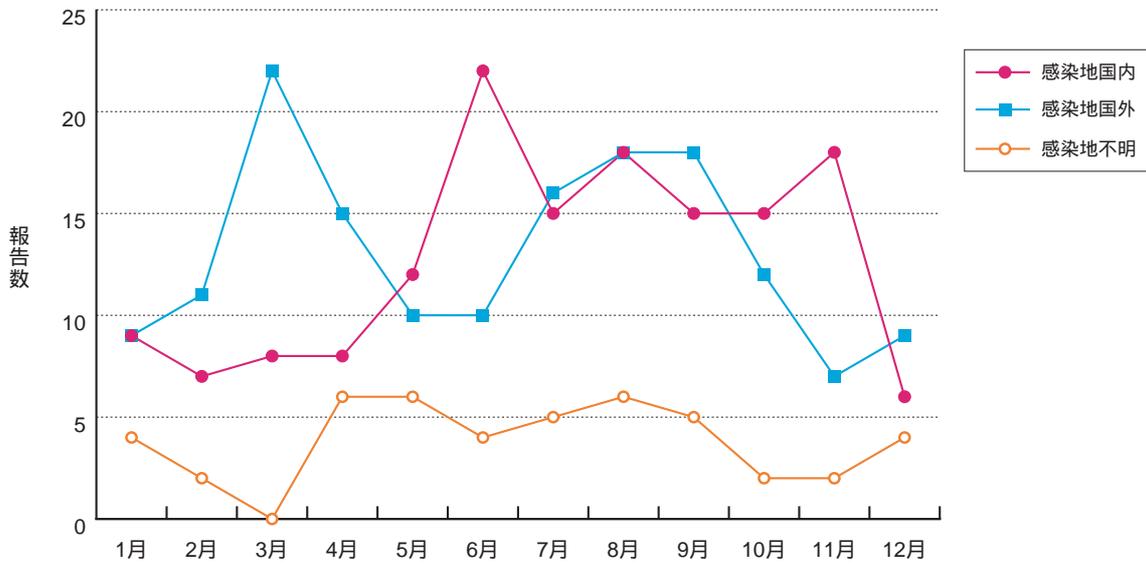


図8. ジアルジア症の感染地域別・発症月別報告数
1999年4月～2006年3月 n=356(発症月の記載されたもの)

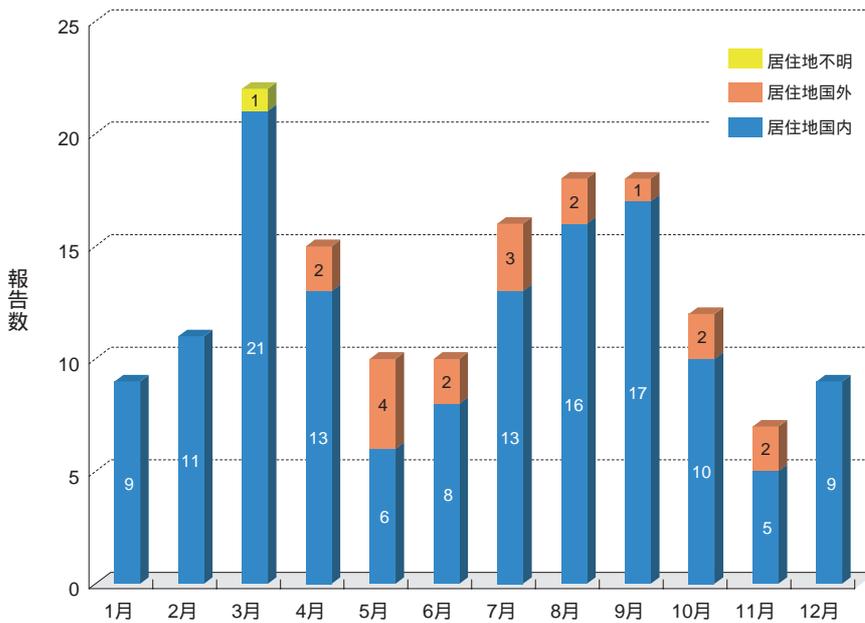


図9. ジアルジア症国外感染例居住地地域別・発症月別報告数
1999年4月～2006年3月 n=157(発症月の記載されたもの)

表. ジアルジア症国外感染例の感染地域・感染国

1999年4月～2006年3月 n=271

地域	国名	最近数年の主な居住者が日本の者 (n=178)の再掲	最近数年の主な居住者が国外の者 (n=92)の再掲	最近数年の主な居住者が不明の者 (n=1)の再掲
アジア		201	150	51
	インド亜大陸/南アジア	104	92	12
	インド	74	70	4
	ネパール	6	6	
	バングラデシュ	7	3	4
	パキスタン	6	3	3
	ミャンマー	1	1	
	スリランカ	1	0	1
	複数国名記載	8	8	
	国名不明	1	1	
	東南アジア	64	29	35
	フィリピン	16	5	11
	タイ	15	9	6
	インドネシア	8	5	3
	カンボジア	7	4	3
	ラオス	6	0	6
	ベトナム	5	1	4
	マレーシア	4	2	2
	シンガポール	1	1	
	国名不明	2	2	
	東アジア	21	19	2
	中国(香港1例含む)	17	15	2
	台湾	4	4	
	韓国	0	0	
	上記2地域以上における複数国名記載	10	9	1
	国名・地域不明アジア	2	1	1
アフリカ		18	6	12
	ガーナ	4	2	2
	タンザニア	4	1	3
	ニジェール	2		2
	モロッコ	1		1
	ブルキナファソ	1		1
	セネガル	1		1
	カーボベルデ	1		1
	エチオピア	1		1
	ケニア	1	1	
	マダガスカル	1	1	
	国名不明	1	1	
南米		11	2	9
	パラグアイ	4		4
	ボリビア	3		3
	ベネズエラ	2	2	
	コロンビア	1		1
	ブラジル	1		1
中東		9	1	7
	シリア	3	1	2
	トルコ	2		2
	イラン	1		1
	オマーン	1		1
	カタール	1		1
	ヨルダン	1		1
中米		8	2	6
	ホンジュラス	4		4
	メキシコ	1		1
	グアテマラ	1	1	
	ニカラグア	1		1
	パナマ	1	1	
北米		5	4	1
	米国(ハワイ1例含む)	5	4	1
欧州		4	2	2
	イタリア	1	1	
	ウズベキスタン	1		1
	キルギス	1	1	
	スペイン	1		1
大洋州		4	3	1
	パラオ	1	1	
	ミクロネシア	1	1	
	マーシャル	1		1
	オーストラリア	1	1	
不明/記載なし		11	8	3
計		271	178	92

まとめ:

ジアルジア症は、1999年4月～2006年3月の7年間に、わが国において683例が診断・報告された。年間報告数は100例程度であり、感染地域不明を除き、国内感染例(298例)と国外感染例(271例)はほぼ同数であった。また、国外感染例の約1/3は、最近数年間の居住地が国外であり、そのほとんどが当該居住国での感染であった。国外感染例の感染地域は、アジア(201例)が74%を占め、なかでもインド(74例)が最多であった。

性別では、国内感染例(男性/女性 = 2.8/1)、国外感染例(男性/女性 = 2.5/1)ともに男性が多かった。年齢中央値は、国内感染例の男性57歳、女性35歳、国外感染例の男性41歳、女性28歳であり、女性に比べ男性の年齢が高く、国外感染に比べ国内感染例の年齢が高かった。国内感染、国外感染ともに幅広い年齢層から報告されているものの、小児例(15歳未満14例)は少なく、成人層が中心であった。ジアルジア症は途上国だけでなく、北米やヨーロッパでも流行が報告されており、一般的には小児が罹患しやすいとされている。また、先進国の保育施設での流行の報告も少なくない。これらの報告に比べ、わが国における報告では小児の報告例は少なかったが、これは本症が鑑別診断に上がることが少ないことによる過小評価とも考えられる。

感染経路としては、国内感染例では、男女ともに約半数が不明で、次いで経口感染が多かったが、他に性的接触が男性の12%(220例中26例。同性間7%、異性間4%、いずれか不明1%。20～50代)、女性の3%(78例中2例。ともに異性間。ともに20代)で推定されていた。国外感染例では、男女ともに経口感染が約9割を占めていた。

ジアルジア症の感染予防としては、少なくとも途上国への渡航に際しての飲料水や食品からの経口感染、川などでの遊泳による水系感染に留意する他、性感染症の一面を持つことを知っておく必要がある。臨床現場では、下痢症の診療において、途上国への渡航歴(家族等の渡航歴も含む)、性的接触による感染の可能性を考慮することはもとより、国内感染例も国外感染例と同程度に発生していることを念頭に、原因がはっきりしない、あるいは遷延する下痢症の場合などでは特に、本症の可能性を疑うことも必要であろう。特に、成人に比して感受性が高いとされる小児や、再発を繰り返して難治性となることも多いとされるHIV感染者等免疫不全者の感染には注意を要する。無症状の健康嚢子保有者が感染源となることにも注意が必要である。さらに検査に際しては、集嚢子法や蛍光抗体染色などを用いて、検出効率を高めて検査を実施することが重要である。

2008年2～3月仙台市におけるC型インフルエンザウイルスの相次ぐ分離

2007/08インフルエンザシーズンの仙台市周辺におけるインフルエンザウイルスの分離は、AH1亜型のインフルエンザウイルスがほとんどで、分離数もいつものシーズンとくらべてかなり少なく推移し、2月、3月には一段と減少傾向にあった。一方、2月に入ってからC型インフルエンザウイルスの分離が見られるようになり、3月にかけても分離が続いている¹⁾ので報告する。

ウイルス分離：分離材料は、仙台市内医療機関受診の呼吸器系感染症症状を示した同市在住の患者から採取した咽頭ぬぐい液あるいは鼻腔ぬぐい液。ウイルス分離は仙台医療センター臨床研究部ウイルスセンターまたは東北大学にてMDCK細胞を用いて実施された。CPEが確認された検体の培養上清を材料に、モルモット血球ならびにニワトリ血球を用いて凝集活性を調べ、前者のみに凝集性を確認したものを暫定AあるいはB型、後者のみに凝集性を示したものを暫定C型インフルエンザ分離株とし、その後AおよびB型の同定については国立感染症研究所より分与された2007/08シーズン検査キットの複数のフェレット抗血清、またC型については山形大学細菌学教室の作製した抗C型インフルエンザウイルス-ウサギ血清を用いた赤血球凝集抑制試験により行った。

ウイルス分離成績：上記2つの検査機関での成績をまとめて報告する。仙台市の主に小児科医療機関を受診したインフルエンザ患者からのA型インフルエンザウイルス分離は、ほとんどがH1亜型であったが、第7週で激減した。H1亜型以外の分離成績は、第6週～第10週の約1カ月間で見ると、H3亜型も散発的に分離されているものの、インフルエンザ分離に占める割合は6%程度であった、一方、第6週あたりからC型ウイルスの分離が目立ち始め、総分離数23件で、全インフルエンザウイルス分離の11%、この期間に分離を試みた検体のうちの約4%を占めた。

これは、他のウイルス分離¹⁾(B型インフルエンザウイルス3件、RSウイルス14件、アデノウイルス3件)を大きく上回っている。

C型インフルエンザが分離された患者について：ウイルスが分離された23人のうち、17人は、発熱等のインフルエンザ様症状で外来での診療にとどまっているが、残りの6例のうち5例は、種々の重症感のある症状から当院小児科で入院治療を受けていた患者からの分離であり、1例(2歳男子)はインフルエンザ様疾患に伴う意識障害、頭部CT像上の脳浮腫所見から脳症の診断を受け、仙台市立病院集中治療室で人工呼吸管理を受けていた患者の急性期検体からの分離であった(なお、この患者検体からは、通常のわれわれの分離システムで分離可能なA型およびB型インフルエンザ、RSウイルス、パラインフルエンザ1、2、3、4型、アデノ、エンテロ、ヘルペス、ヒト・メタニューモおよびサイトメガロウイルスは分離されなかった)。

考察：C型インフルエンザの流行は、理由は不明だが波があり、昨年は仙台市ではまったく分離できなかった。流行する年には、日本各地で分離されたこともあり²⁾、その意味で各地の衛生研究所でも注視すべきと思われる。

C型インフルエンザウイルスに対しては、MDCK細胞、HMV-II細胞、CaCo-2細胞等が感受性を持っており、これらの細胞のいずれかで分離可能である。CPEが観察されたときに血球凝集反応を行い、モルモット赤血球は凝集せず七面鳥赤血球あるいはニワトリ赤血球を凝集するのを確認できれば、容易に判定できる(ただし、ニワトリ赤血球でも初日離の血球は凝集しないので注意が必要である)。最終的には免疫学的方法あるいは遺伝子解析で同定するが、必要であれば当研究所の協力は可能である。

これまで一般には、稀に分離される成人例の報告によってC型インフルエンザの症状は鼻かぜ程度であるという認識がなされてきたが、われわれはこれまで、C型も統計的にはややA型にくらべて症状は軽いものの、臨床の現場ではA型と区別がほとんどつかないインフルエンザの症状をもたらし、ときに入院にいたる経過をとる例も珍しくないことを明らかにしてきた³⁾。今回、入院患者からの分離が5週間に6件もあったことは、まさにそれを表していると思われる。とくに、脳症と診断された児の咽頭からC型インフルエンザウイルスのみが分離されたのは初めてのことである。今後は、様々な証拠を集め、同ウイルス感染が本脳症症例の原因であることを解析する予定である。

【参考文献】

- 1) ウイルスセンター週報 <http://www.snh.go.jp/Subject/26/virus/weekly.html>
- 2) Matsuzaki et al., JCM 45: 783-788, 2007
- 3) Matsuzaki et al., JID 193: 1229-1235, 2006

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

小児科 貴田岡節子

臨床研究部ウイルスセンター 岡本道子 近江 彰 西村秀一

永井小児科医院 永井幸夫

庄司内科小児科医院 庄司 眞

仙台市立病院小児科 渡邊浩司

東北大学大学院医学系研究科微生物学分野

鈴木 陽 清水みどり 齋藤麻理子 押谷 仁

仙台外来小児科懇話会15小児科医院 代表 川村和久

山形大学医学部看護学科 松寄葉子

(IASR 2008年4月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

発疹熱の輸入感染症例の発生について

厚生労働省健康局結核感染症課

今般、インドネシアのバリ島から帰国者した2名が、それぞれ平成20年3月中旬以降に相次いで発疹熱リケッチア *Rickettsia typhi* による発疹熱を発症していたことが明らかになったことから、海外渡航者に対する注意喚起を行いました。なお、今回の事例は、2003年のベトナムからの帰国者での初事例以来の輸入感染症例です。

これらの事例では、ネズミノミを介して感染したことが疑われます。東南アジア、特にインドネシア(バリ島)に渡航される方は、ネズミが出没するような滞在場所を避け、ノミに刺されないようにし、もし海外滞在中や帰国後に発熱や頭痛に発疹を伴った場合は、検疫所に相談、又は医療機関を早期に受診するようにしてください。

また、発疹熱リケッチア *Rickettsia typhi* による発疹熱は、感染症法による届出疾患ではありませんが、四類感染症の発疹チフス(病原体 *Rickettsia prowazekii*) など他のリケッチア性疾患と類似の症状を呈すため、医療現場での注意が必要です。

以下に、発疹熱に関する参考情報を紹介します。関連情報は厚生労働省ホームページに掲載する予定ですので、詳しくはそちらをご覧ください。

発疹熱について

発疹熱(はっしんねつ)とは: 発疹熱リケッチアによる急性熱性・発疹性感染症

病原体: 発疹チフス群リケッチアの発疹熱リケッチア (*Rickettsia typhi*)

感染経路: 自然界ではネズミとネズミノミの間で感染サイクルが維持されており、ヒトへはネズミノミが感染源になります。感染は、吸血ノミの糞中に排出されるリケッチアが、刺咬部位を搔いてできた傷口から侵入して起こります。ヒトからヒトへの感染はありません。

流行状況: 古くから世界中で散発的な流行はありますが、近年ではオーストラリア、中国、ギリシャ、イスラエル、クウェート、タイ、アメリカ南部、スペイン、韓国などで報告されています。また、インドネシアからヨーロッパに帰国した3例が1997年に連続して発症しています。わが国では1950年代以降4例の報告があります。

臨床症状: 6～18日間(平均10日間)の潜伏期間の後、頭痛と発熱で発症、その後発疹が出現します。発熱は弛張しながら2週間程度続きます。症状は発疹チフスに似ていますが、比較的軽症です。合併症や死亡例はまれですが、ときに多臓器不全などの重症例があり高齢者では死に至ることもあります。

検査と診断: 病原体分離は困難で、急性期血液からの遺伝子検出がありますが、一般的には血清診断が行われます。ワイル・フェリックス反応は特異性が低く、確定診断には特異抗原を用いた蛍光抗体法あるいは免疫ペルオキシダーゼ法などを用います。急性期と回復期での4倍以上の上昇を確認します。検査は、地方衛生研究所または国立感染症研究所に依頼できます。

治療: ミノサイクリン、ドキシサイクリン等のテトラサイクリン系抗菌薬が最も有効で、ついでクロラムフェニコールや、ニューキノロン系抗菌薬も有効です。

予防と対策: 効果的なワクチンはありません。海外に渡航する場合、ネズミとの接触や、不衛生な滞在場所を避けるとともに、海外滞在中や帰国後に発熱、頭痛に発疹を伴った場合、本症を念頭に医療機関を受診してください。

予防・対策等について

今後、東南アジア、特にインドネシア(バリ島)への渡航者は、ネズミが出没するような滞在場所を避け、ノミに刺されないようにし、もし海外滞在中や帰国後に発熱、頭痛に発疹を伴った場合は、医療機関を早期に受診するようにしてください。

また、医療関係者に対して、発疹熱リケッチア *Rickettsia typhi* による発疹熱は、感染症法による届出疾患ではありませんが、四類感染症の発疹チフス(病原体 *Rickettsia prowazekii*) など他のリケッチア性疾患と類似の症状を呈するため、臨床現場での注意が必要です。



海外感染症情報

鳥インフルエンザ - インドネシアにおける状況

WHO/EPR 2008年4月2日 - 更新41

インドネシア保健省は、鳥インフルエンザウイルスA/H5N1亜型の新たなヒト感染症例を3例発表した。

症例の間に疫学的な関連はない。第1例目は西ジャワ州Subang地区の15歳男子学生であり、3月19日に発症、3月22日に入院し、3月26日に死亡した。

第2例目は西ジャカルタ州Bekasi市の11歳の女子生徒であり、3月19日に発症、3月23日に入院し、3月28日に死亡した。

第3例目は西スマトラ州Bukit Tinggiの21か月の女兒であり、3月17日に発症し、3月22日に入院した。女兒は現在病院で回復しつつある。

3例すべての感染源は未だに調査中である。

インドネシアでは現在までに確認された132例のうち、107例が死亡している。

鳥インフルエンザ - パキスタンにおける状況

WHO/EPR 2008年4月3日 - 更新2

2例の新たなH5N1症例が血清学的検査により確認され、以前に報告されたPeshawarの家族内小集積に対する最終的なH5N1感染の検査結果が得られた。

この検査はエジプト・カイロにあるWHOのH5リファレンス研究施設と、アメリカ合衆国・アトランタにあるWHOのインフルエンザ試験研究協力センターで行なわれた。下の表はこの家族内小集積における確定例や確実性が高い症例の検査結果のまとめである。

- ・暫定的なリスク評価によれば、持続的あるいは共同体レベルでのヒトヒト感染の証拠は見つからなかった。
- ・罹患した家族の他の人々や関わった医療従事者を含む、同定された濃厚接触者の全員が無症状であり、密接な医学的観察をすでに解除されている。

これらの検査結果は2007年12月に行なわれた集団発生調査から得られた疫学的所見を支持する。またそれは、以前に報告された数件のヒトヒト感染事例と一貫している限定的なヒトヒト感染が、家族の人々のうち何人かで発生したであろうということを示唆するといった最終的なリスク評価を支持する。この集団発生は共同体には広がらず、ヒト感染の将来的リスクを低減するための適切な手段が採られた。

関連	発症日	転帰	曝露	確定・未確定
症例1 (初発例)	2007/10/29	完全に回復	病鳥・死鳥への直接接触	確定(血清)
症例2	2007/11/12	死亡 (11月19日)	症例1と濃厚接触、病鳥・死鳥への直接接触は明らかでない	確実性が高い (検体は得られず)
症例3	2007/11/21	死亡 (11月28日)	症例1・2と濃厚接触、病鳥・死鳥への直接接触は明らかでない	確定(PCR)
症例4	2007/11/21	完全に回復	症例1・2と濃厚接触、病鳥・死鳥への直接接触は明らかでない	確定(血清)

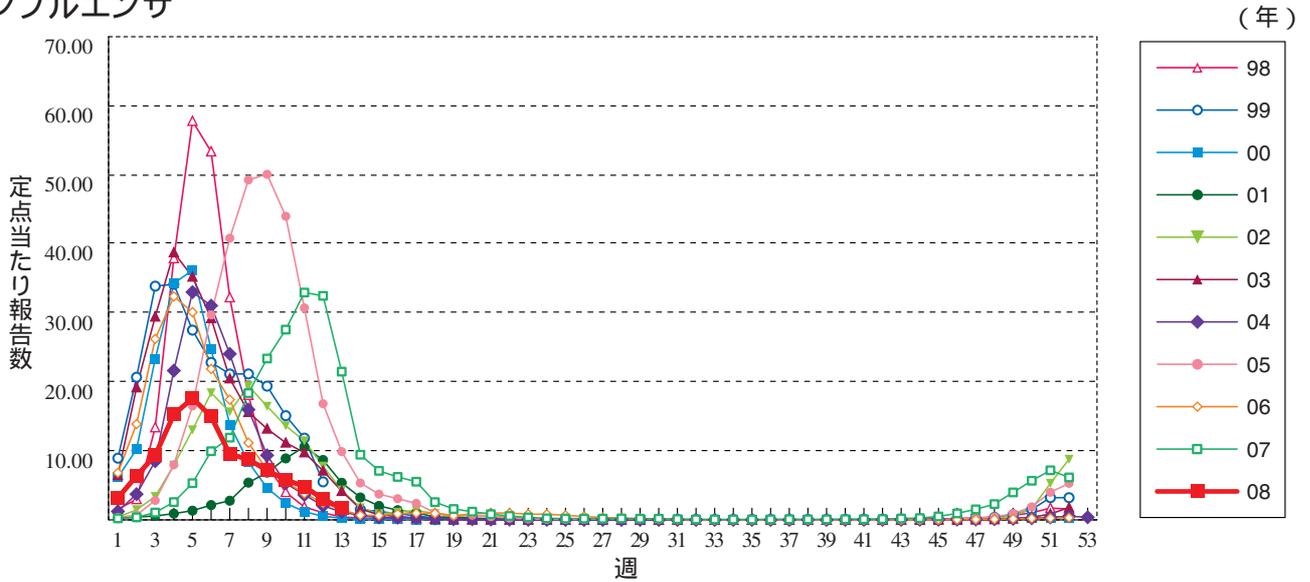


感染症の話

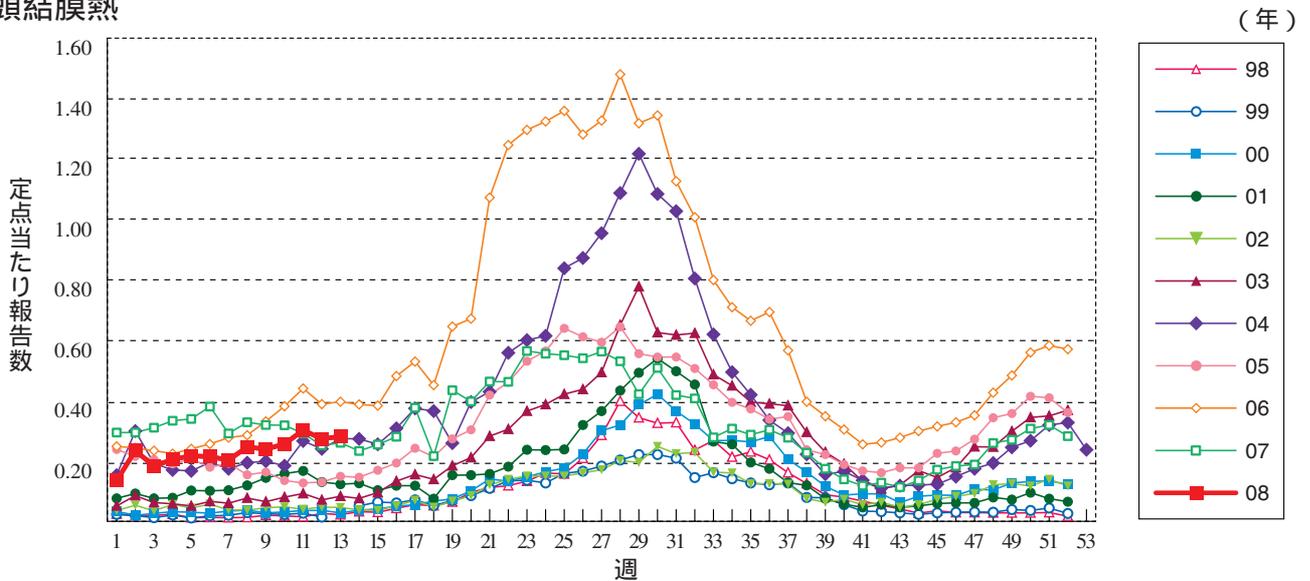
今週はお休みさせていただきます。
「感染症の話」過去の掲載分については
<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/index.html>
でご覧いただけます。

グラフ総覧(13週)

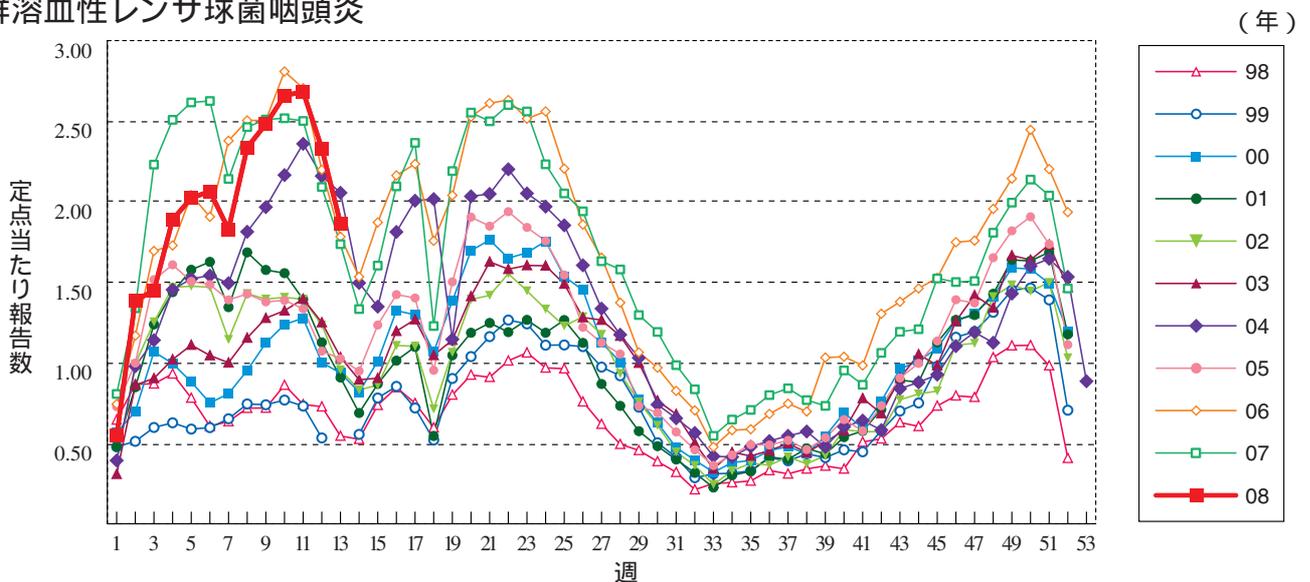
インフルエンザ



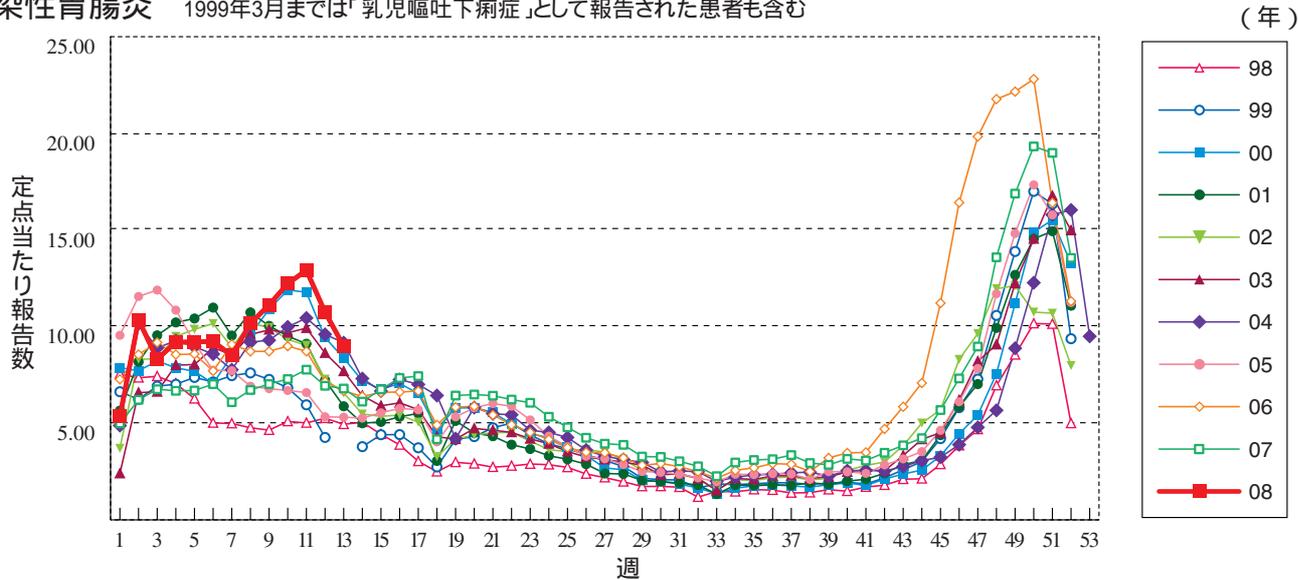
咽頭結膜熱



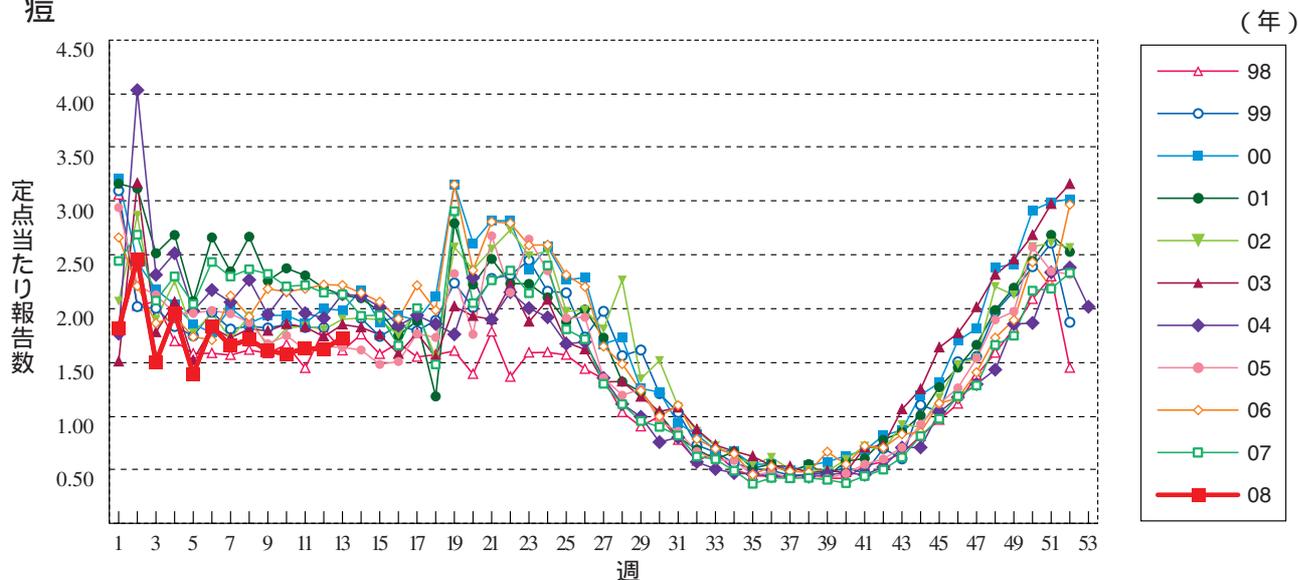
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



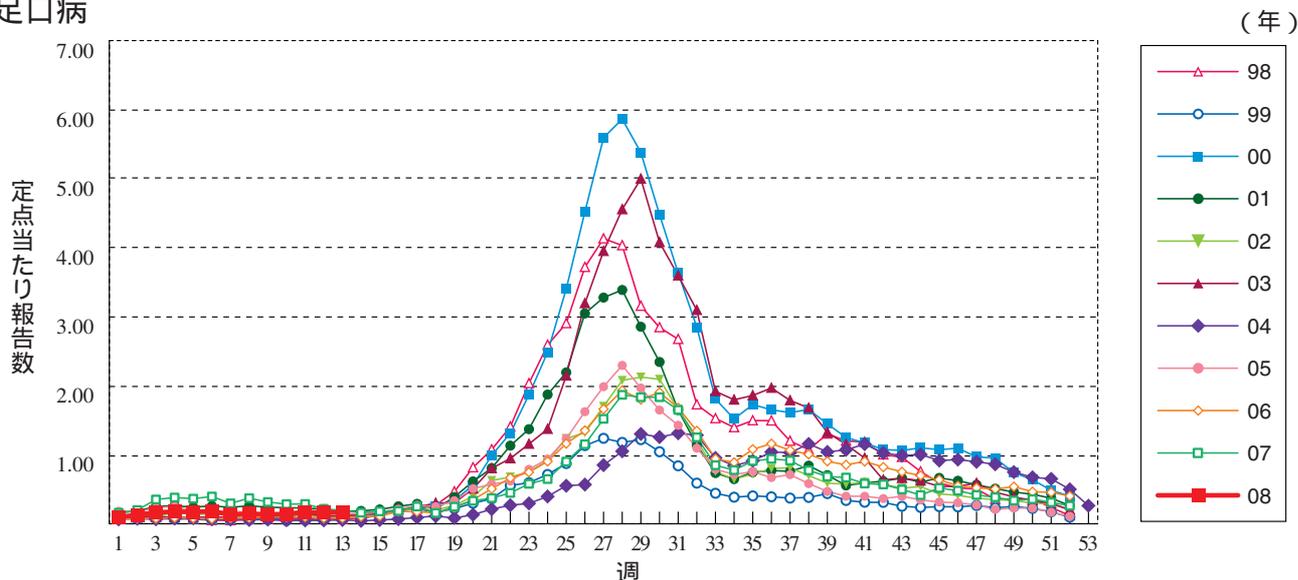
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



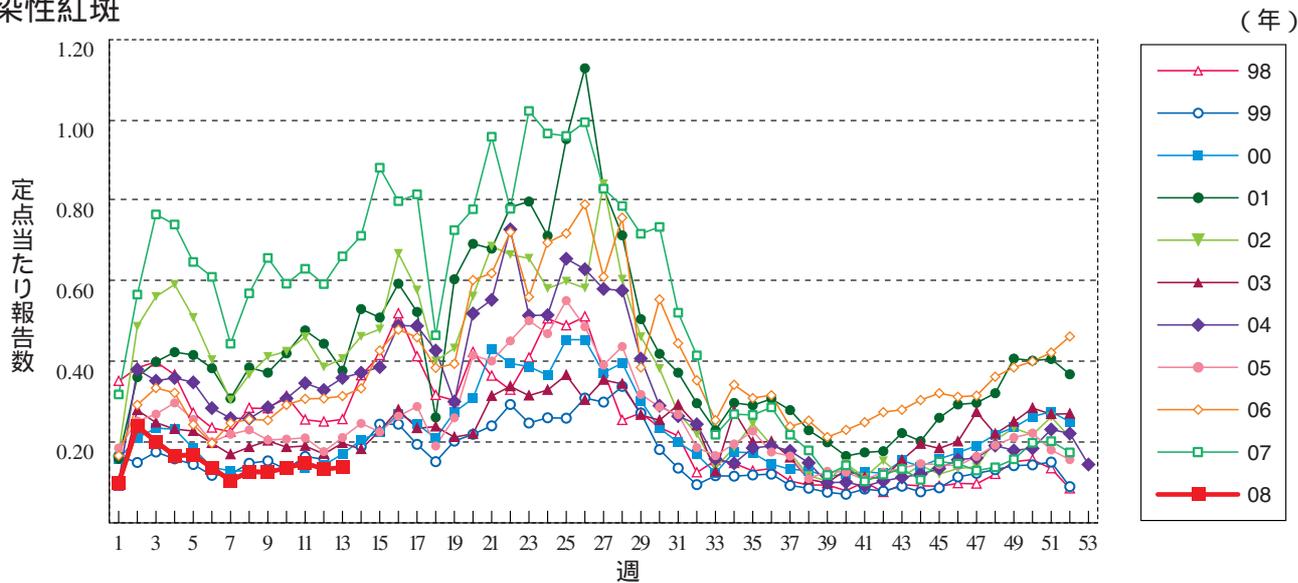
水痘



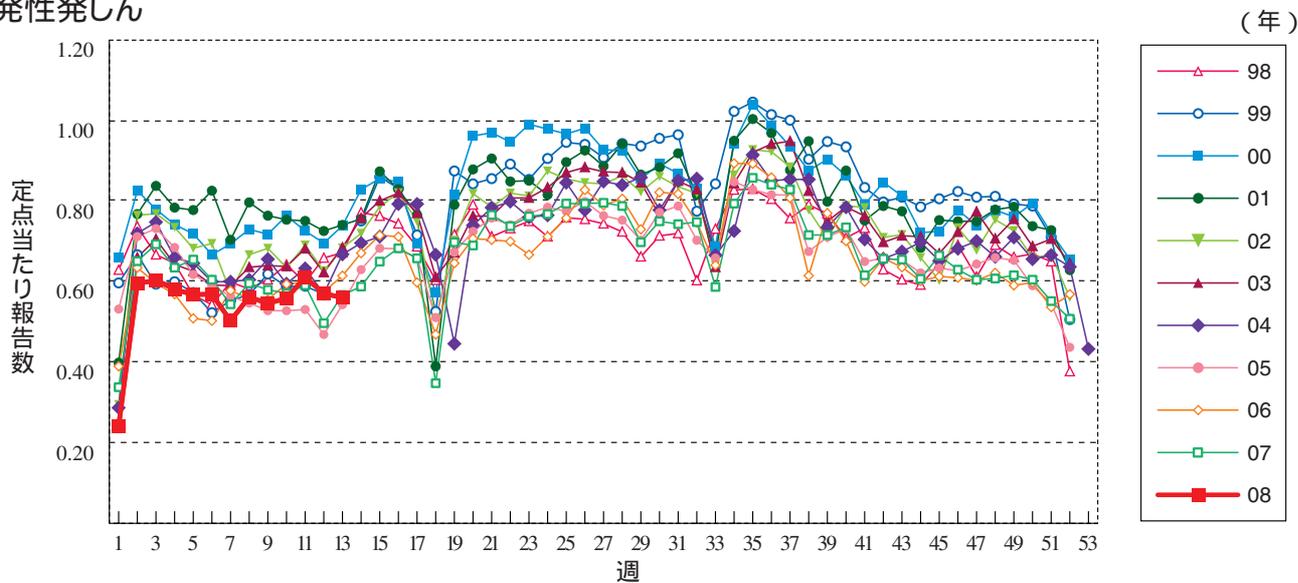
手足口病



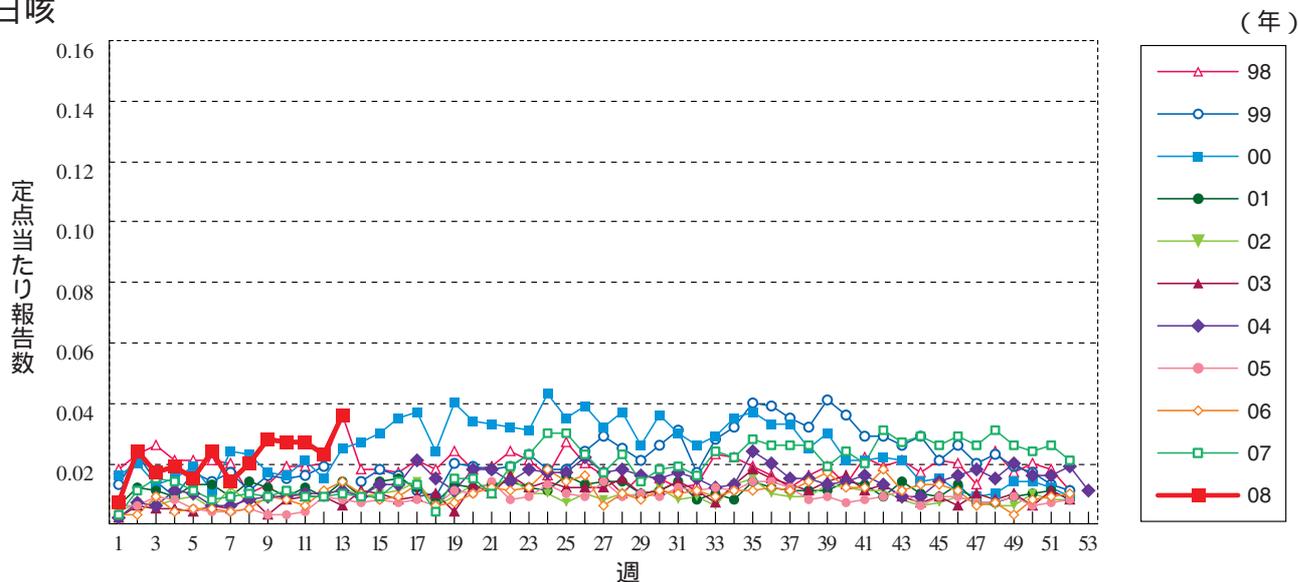
伝染性紅斑



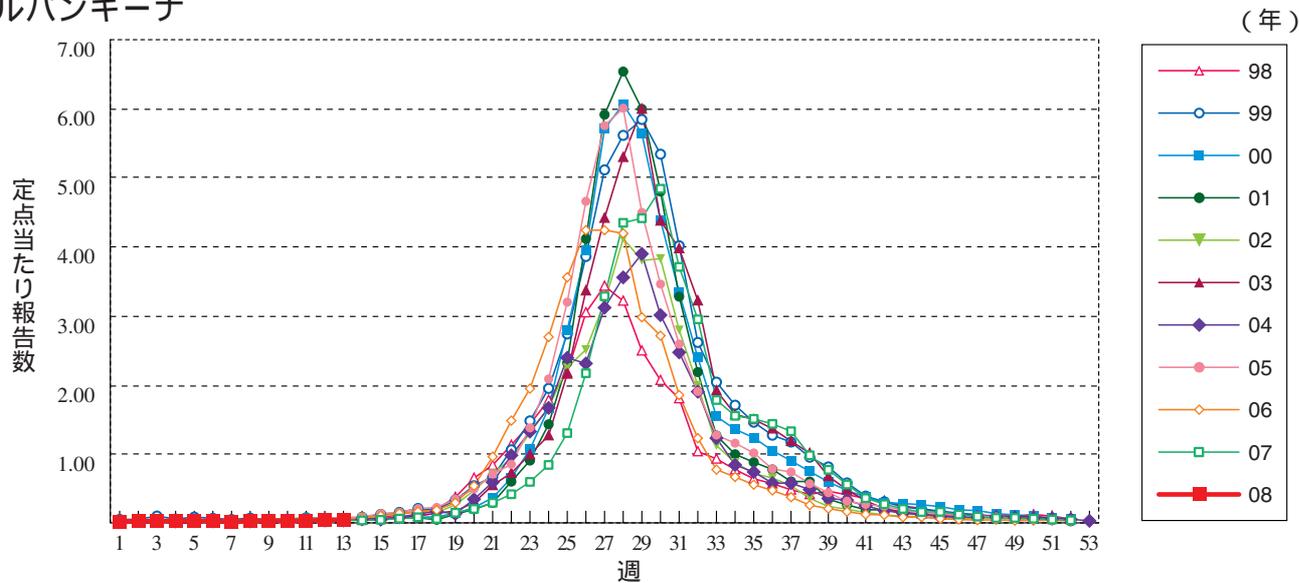
突発性発しん



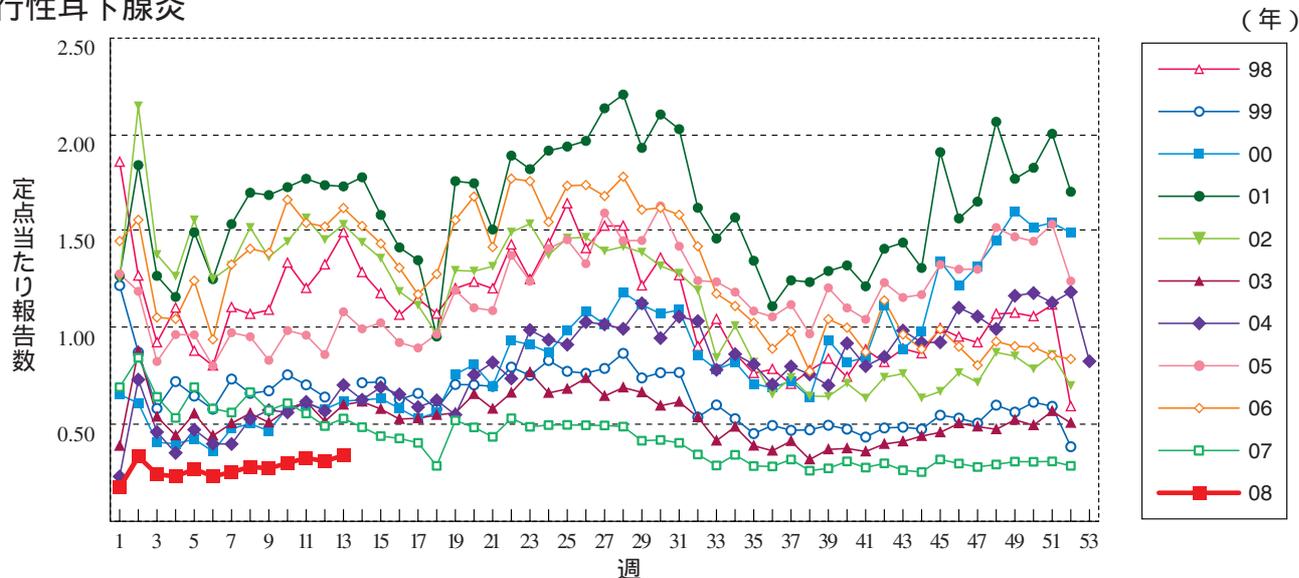
百日咳



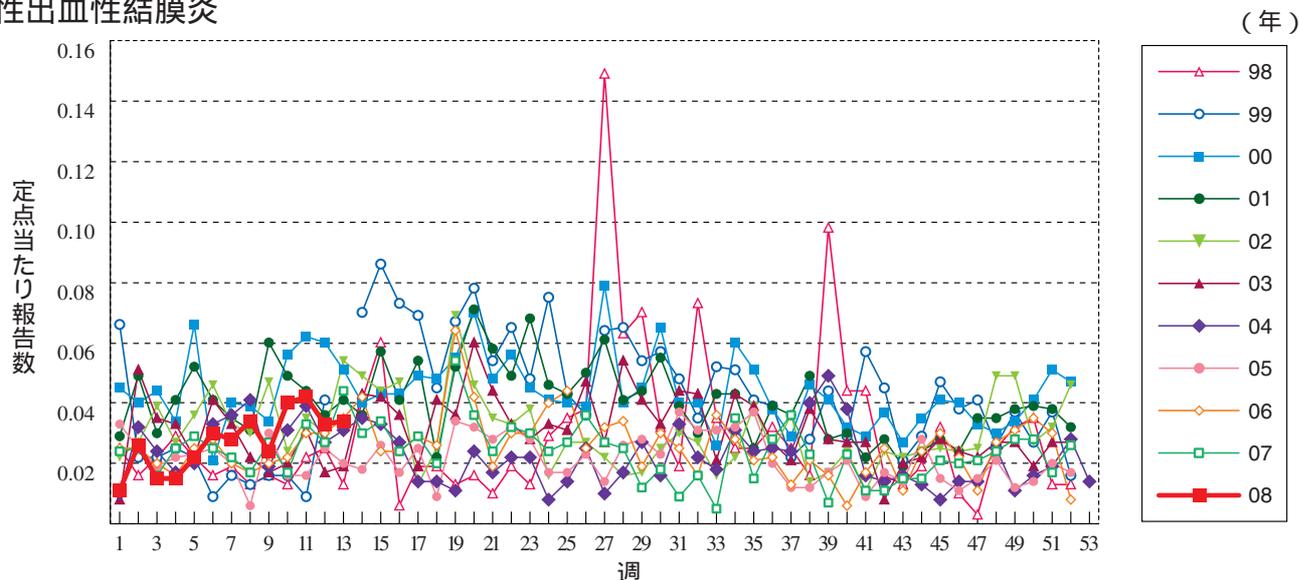
ヘルパンギーナ



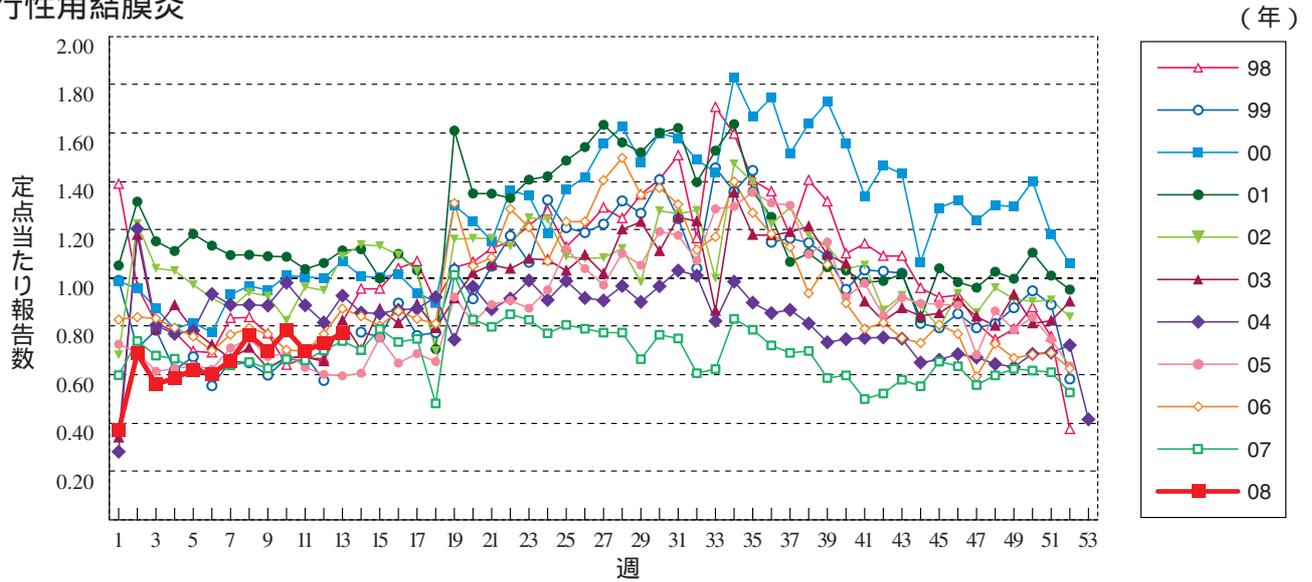
流行性耳下腺炎



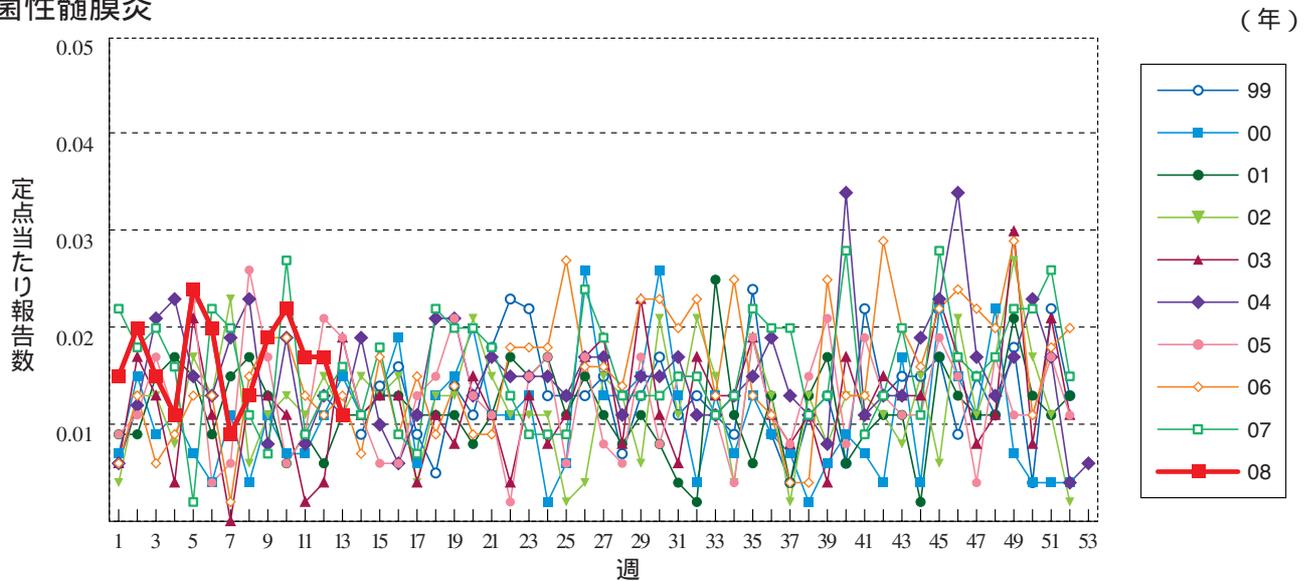
急性出血性結膜炎



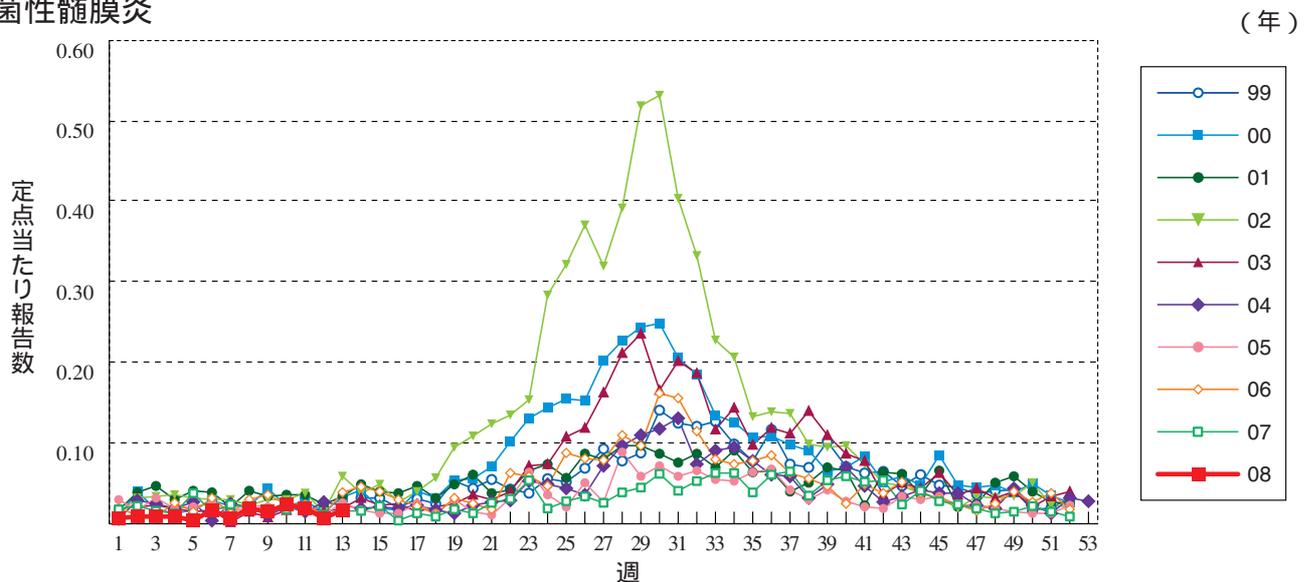
流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎

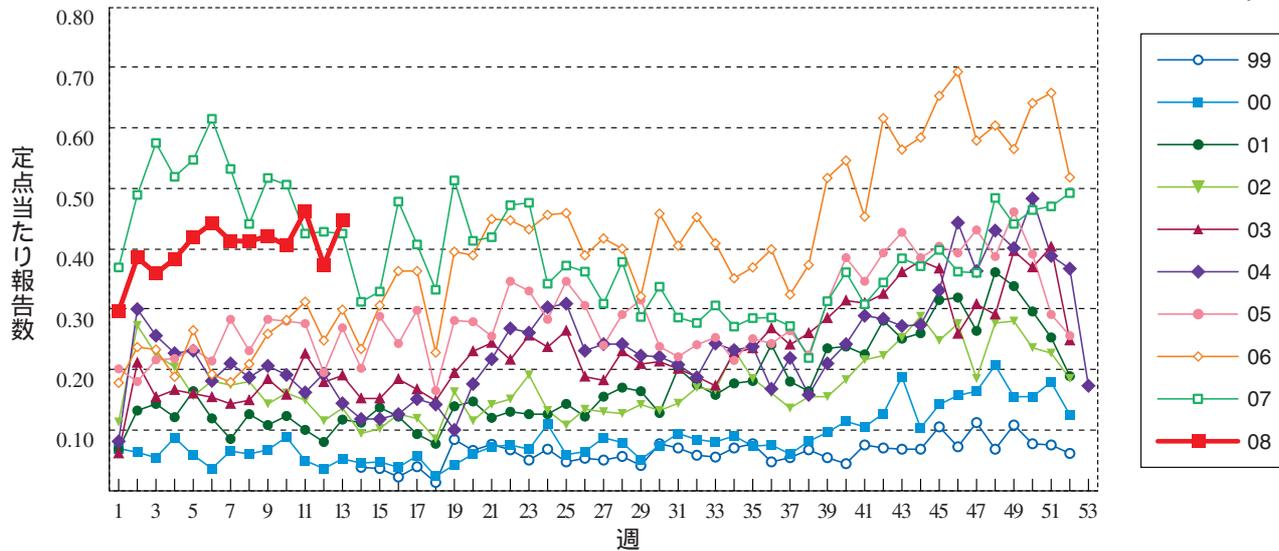


無菌性髄膜炎



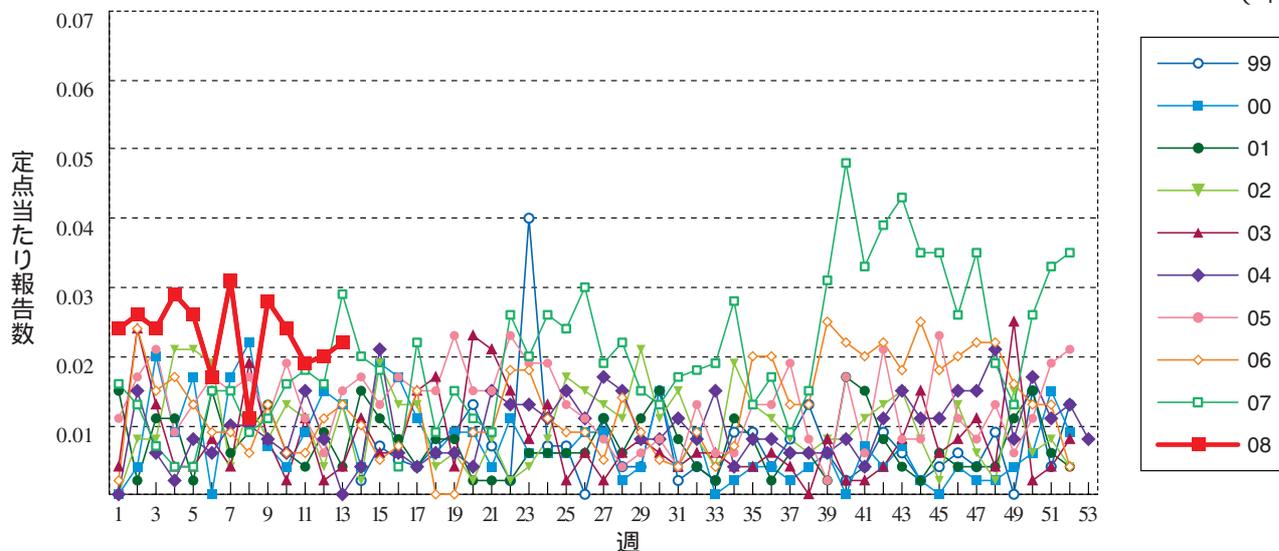
マイコプラズマ肺炎

(年)



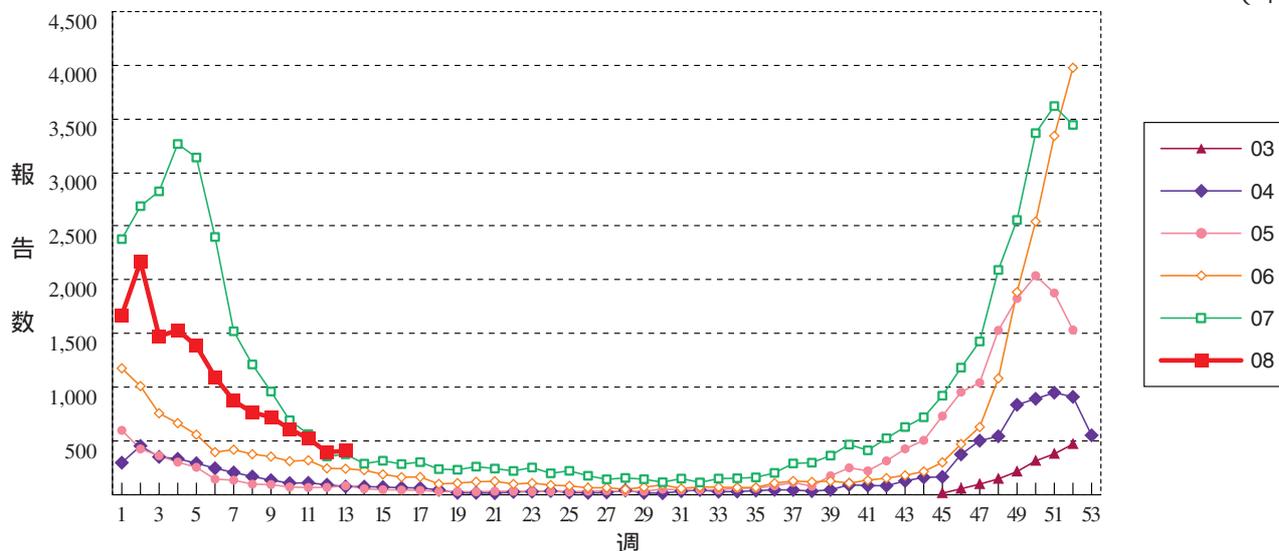
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



RSウイルス感染症 定ポイントあたり報告数ではなく、報告数を示しています。

(年)





13週のデータ

注) 表中の報告数は4月3日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。
2008年1月からの省令改正に伴い、疾病の追加および並び順を一部変更しました。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2008年13週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		痘 そう		南米出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		結 核	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	258	5323	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	143	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	85	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	33	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	94	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	52	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	106	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	75	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	57	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	250	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	277	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54	854	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	267	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	89	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	55	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	38	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	31	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	23	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	58	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	90	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	112	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	399	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	86	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	57	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	124	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	276	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	206	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	75	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	61	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	29	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	43	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	127	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	67	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	41	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	65	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	33	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	263	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	41	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	76	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	58	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	88	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	95	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37	

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2008年13週

	ジフテリア		重症急性 呼吸器症候群*		コレラ		細菌性赤痢		腸管出血性 大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	1	6	4	75	14	236	2	13	-	6	1	12	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	2	2	-	-	-	4	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	2	-	1	1	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	9	1	6	-	-	-	1	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	1	17	1	12	-	3	-	-	-	2	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	1	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	1	4	-	-	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	1	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	7	1	8	-	-	-	1	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	5	1	17	-	-	-	1	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	1	4	1	9	-	1	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	1	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	1	4	1	19	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	78	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	1	3	10	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2008年13週

	A型肝炎		エキノコックス症		黄熱		オウム病		オムスク出血熱		回帰熱		キャサナル森林病		Q熱		狂犬病	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	2	47	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
北海道	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
秋田県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2008年13週

	コクシジ オイデス症		サル痘		腎症候性出血熱		西部ウマ脳炎		ダニ媒介脳炎		炭疽		つつが虫病		デング熱		東部ウマ脳炎		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38	1	13	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	4	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2008年13週

	鳥インフルエンザ		ニパウイルス感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		鼻 疽		ブルセラ症		ベネズエラウマ脳炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

2008年13週

	ヘンドラウイルス感染症		発しんチフス		ポツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス感染症		リフトバレー熱		類 鼻 疽	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	1	9	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。

**ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2008年13週

	レジオネラ症		レプトスピラ症		ロッキー山 紅斑熱		アメーバ赤痢		ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	6	180	-	-	-	-	10	189	-	46	1	60	-	-	3	30	2	33
北海道	-	5	-	-	-	-	2	5	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1
岩手県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-
秋田県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山形県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	2	-	-	-	-	-	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	3	-	-	-	-	-	3	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	15	-	-	-	-	-	8	-	2	-	3	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	6	-	-	-	-	1	10	-	1	-	3	-	-	-	1	-	2
東京都	1	16	-	-	-	-	3	36	-	6	-	4	-	-	1	2	-	7
神奈川県	1	11	-	-	-	-	1	24	-	2	-	3	-	-	1	5	-	1
新潟県	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福井県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	6	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	3	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
愛知県	1	12	-	-	-	-	1	18	-	4	-	4	-	-	-	-	-	2
三重県	-	2	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1
滋賀県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	9	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	19	-	-	-	-	1	23	-	5	-	10	-	-	-	3	-	3
兵庫県	2	11	-	-	-	-	-	12	-	1	-	1	-	-	-	1	-	4
奈良県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	5	-	-	-	-	-	2	-	2	-	3	-	-	-	1	-	-
広島県	-	8	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-
山口県	-	2	-	-	-	-	1	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	4	-	-	-	-	-	5	-	2	-	3	-	-	-	-	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-	-	-	1	-	2
鹿児島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	1
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2008年13週

	後天性免疫不全 症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風しん 症候群		梅 毒		破 傷 風		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		バンコマイシン耐性 腸球菌感染症		風 し ん	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	13	313	2	18	-	5	-	-	7	173	-	14	-	-	1	15	4	108
北海道	1	4	-	-	-	1	-	-	-	4	-	2	-	-	-	1	-	4
青森県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	3	-	2
千葉県	1	13	1	3	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	3
東京都	3	121	-	5	-	-	-	-	2	37	-	2	-	-	-	3	1	13
神奈川県	-	14	-	3	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	1	12
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	1	1	-	5
岐阜県	-	2	1	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	7	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	1	-	6
愛知県	1	25	-	1	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	1	-	1
三重県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	1	3	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	1	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	2	38	-	-	-	1	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-	6
兵庫県	2	9	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	12
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	8
広島県	-	1	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	7
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	11	-	1	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	2	-	10
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	6	-	-	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	2	-	-	-	1	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2008年13週

	麻しん		インフルエンザ (H5N1)	
	報告数	累積	報告数	累積
総数	333	5083	-	-
北海道	32	443	-	-
青森県	1	39	-	-
岩手県	-	2	-	-
宮城県	-	7	-	-
秋田県	-	150	-	-
山形県	-	8	-	-
福島県	-	8	-	-
茨城県	6	41	-	-
栃木県	-	8	-	-
群馬県	2	38	-	-
埼玉県	16	205	-	-
千葉県	5	258	-	-
東京都	32	609	-	-
神奈川県	133	1972	-	-
新潟県	1	30	-	-
富山県	-	4	-	-
石川県	1	7	-	-
福井県	-	4	-	-
山梨県	-	4	-	-
長野県	1	46	-	-
岐阜県	-	9	-	-
静岡県	6	61	-	-
愛知県	12	64	-	-
三重県	-	6	-	-
滋賀県	-	1	-	-
京都府	1	24	-	-
大阪府	6	124	-	-
兵庫県	3	49	-	-
奈良県	-	2	-	-
和歌山県	4	20	-	-
鳥取県	-	2	-	-
島根県	1	3	-	-
岡山県	7	29	-	-
広島県	27	88	-	-
山口県	-	9	-	-
徳島県	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-
愛媛県	-	7	-	-
高知県	-	-	-	-
福岡県	20	501	-	-
佐賀県	-	2	-	-
長崎県	7	20	-	-
熊本県	-	73	-	-
大分県	2	73	-	-
宮崎県	-	4	-	-
鹿児島県	-	15	-	-
沖縄県	7	13	-	-

*高病原性鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2008年13週

	インフルエンザ*		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	7903	1.68	843	0.28	5600	1.87	26973	8.99	5185	1.73	495	0.16	414	0.14	1682	0.56	109	0.04
北海道	135	0.59	35	0.24	427	2.99	515	3.60	212	1.48	3	0.02	33	0.23	63	0.44	2	0.01
青森県	13	0.20	21	0.50	87	2.07	148	3.52	48	1.14	8	0.19	3	0.07	20	0.48	-	-
岩手県	25	0.40	8	0.21	85	2.18	187	4.79	35	0.90	-	-	17	0.44	12	0.31	-	-
宮城県	118	1.23	8	0.13	102	1.70	638	10.63	138	2.30	1	0.02	8	0.13	51	0.85	-	-
秋田県	50	0.91	9	0.26	89	2.54	176	5.03	45	1.29	1	0.03	11	0.31	9	0.26	1	0.03
山形県	37	0.77	5	0.17	102	3.40	370	12.33	45	1.50	-	-	9	0.30	29	0.97	1	0.03
福島県	135	1.69	9	0.19	121	2.52	331	6.90	51	1.06	1	0.02	4	0.08	26	0.54	2	0.04
茨城県	203	1.69	4	0.05	189	2.52	475	6.33	100	1.33	2	0.03	7	0.09	28	0.37	1	0.01
栃木県	110	1.47	4	0.09	81	1.72	245	5.21	88	1.87	1	0.02	3	0.06	24	0.51	4	0.09
群馬県	132	1.32	12	0.19	111	1.79	537	8.66	97	1.56	4	0.06	7	0.11	44	0.71	-	-
埼玉県	234	0.96	40	0.26	371	2.39	1626	10.49	238	1.54	4	0.03	24	0.15	104	0.67	3	0.02
千葉県	220	1.09	31	0.25	254	2.02	1287	10.21	278	2.21	2	0.02	11	0.09	70	0.56	19	0.15
東京都	226	0.81	31	0.22	262	1.83	1368	9.57	193	1.35	7	0.05	30	0.21	83	0.58	4	0.03
神奈川県	270	0.93	26	0.14	342	1.79	1783	9.34	274	1.43	5	0.03	23	0.12	133	0.70	2	0.01
新潟県	267	2.78	24	0.39	179	2.93	624	10.23	116	1.90	9	0.15	37	0.61	34	0.56	4	0.07
富山県	54	1.15	21	0.72	76	2.62	378	13.03	40	1.38	1	0.03	1	0.03	17	0.59	-	-
石川県	42	0.88	13	0.45	93	3.21	406	14.00	59	2.03	-	-	1	0.03	14	0.48	-	-
福井県	31	0.97	3	0.14	50	2.27	252	11.45	50	2.27	-	-	4	0.18	5	0.23	7	0.32
山梨県	18	0.45	5	0.21	29	1.21	129	5.38	14	0.58	3	0.13	-	-	6	0.25	-	-
長野県	238	2.74	3	0.05	65	1.18	437	7.95	101	1.84	7	0.13	3	0.05	16	0.29	2	0.04
岐阜県	98	1.13	8	0.15	39	0.74	216	4.08	42	0.79	2	0.04	-	-	12	0.23	3	0.06
静岡県	152	1.18	10	0.12	120	1.41	738	8.68	163	1.92	8	0.09	10	0.12	57	0.67	4	0.05
愛知県	418	2.15	27	0.15	340	1.88	1428	7.89	237	1.31	15	0.08	8	0.04	98	0.54	8	0.04
三重県	50	0.68	17	0.38	85	1.89	576	12.80	51	1.13	20	0.44	7	0.16	31	0.69	1	0.02
滋賀県	58	1.09	4	0.13	51	1.59	310	9.69	57	1.78	4	0.13	5	0.16	13	0.41	1	0.03
京都府	115	0.93	10	0.14	109	1.47	547	7.39	85	1.15	41	0.55	3	0.04	22	0.30	1	0.01
大阪府	230	0.83	103	0.54	321	1.68	1716	8.98	351	1.84	26	0.14	25	0.13	103	0.54	14	0.07
兵庫県	218	1.10	51	0.40	132	1.02	1155	8.95	191	1.48	11	0.09	4	0.03	71	0.55	3	0.02
奈良県	28	0.51	16	0.46	50	1.43	305	8.71	44	1.26	5	0.14	1	0.03	5	0.14	-	-
和歌山県	29	0.58	11	0.35	33	1.06	204	6.58	96	3.10	1	0.03	6	0.19	15	0.48	-	-
鳥取県	96	3.31	-	-	84	4.42	186	9.79	38	2.00	20	1.05	4	0.21	15	0.79	-	-
島根県	44	1.26	9	0.39	32	1.39	280	12.17	23	1.00	1	0.04	4	0.17	15	0.65	-	-
岡山県	98	1.17	14	0.26	40	0.74	562	10.41	63	1.17	14	0.26	14	0.26	21	0.39	-	-
広島県	262	2.28	44	0.61	92	1.28	694	9.64	94	1.31	28	0.39	13	0.18	43	0.60	10	0.14
山口県	111	1.59	29	0.59	171	3.49	586	11.96	119	2.43	22	0.45	8	0.16	35	0.71	1	0.02
徳島県	37	0.97	5	0.22	46	2.00	280	12.17	43	1.87	12	0.52	-	-	22	0.96	-	-
香川県	35	0.74	3	0.11	15	0.54	263	9.39	60	2.14	17	0.61	-	-	11	0.39	-	-
愛媛県	266	4.36	5	0.14	39	1.05	447	12.08	65	1.76	20	0.54	6	0.16	39	1.05	-	-
高知県	120	2.50	11	0.37	15	0.50	233	7.77	79	2.63	1	0.03	3	0.10	6	0.20	-	-
福岡県	749	3.78	49	0.41	229	1.91	1153	9.61	366	3.05	22	0.18	4	0.03	88	0.73	6	0.05
佐賀県	220	5.64	13	0.57	49	2.13	184	8.00	50	2.17	3	0.13	-	-	17	0.74	-	-
長崎県	369	5.27	33	0.75	73	1.66	366	8.32	87	1.98	6	0.14	2	0.05	17	0.39	-	-
熊本県	183	2.29	8	0.17	53	1.10	651	13.56	90	1.88	15	0.31	-	-	41	0.85	-	-
大分県	152	2.67	14	0.39	96	2.67	566	15.72	78	2.17	10	0.28	25	0.69	28	0.78	-	-
宮崎県	291	4.93	6	0.17	55	1.53	600	16.67	67	1.86	40	1.11	6	0.17	40	1.11	-	-
鹿児島県	173	1.88	28	0.51	84	1.53	640	11.64	132	2.40	56	1.02	7	0.13	17	0.31	-	-
沖縄県	743	13.04	3	0.09	32	0.97	175	5.30	192	5.82	16	0.48	13	0.39	12	0.36	5	0.15

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2008年13週

	ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		RSウイルス感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数
総 数	132	0.04	1024	0.34	23	0.03	518	0.77	5	0.01	8	0.02	206	0.45	10	0.02	409
北海道	5	0.03	26	0.18	-	-	15	0.52	1	0.04	-	-	5	0.22	-	-	43
青森県	-	-	3	0.07	-	-	8	0.73	-	-	-	-	4	0.67	-	-	5
岩手県	2	0.05	8	0.21	-	-	5	0.42	1	0.05	-	-	16	0.80	-	-	4
宮城県	3	0.05	12	0.20	2	0.17	3	0.25	-	-	-	-	28	2.33	-	-	10
秋田県	-	-	75	2.14	-	-	9	1.29	-	-	-	-	-	-	-	-	10
山形県	1	0.03	31	1.03	-	-	3	0.38	-	-	-	-	1	0.10	1	0.10	2
福島県	1	0.02	3	0.06	-	-	9	0.75	-	-	-	-	29	4.14	2	0.29	20
茨城県	1	0.01	4	0.05	-	-	32	1.88	-	-	-	-	4	0.31	-	-	4
栃木県	5	0.11	15	0.32	-	-	11	0.92	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-
群馬県	1	0.02	59	0.95	1	0.07	33	2.36	-	-	-	-	11	1.38	-	-	-
埼玉県	1	0.01	34	0.22	2	0.05	22	0.52	-	-	-	-	5	0.56	-	-	4
千葉県	3	0.02	40	0.32	6	0.18	36	1.06	-	-	1	0.11	1	0.11	1	0.11	2
東京都	2	0.01	70	0.49	1	0.03	13	0.35	-	-	-	-	7	0.33	-	-	10
神奈川県	2	0.01	26	0.14	1	0.03	44	1.13	-	-	-	-	1	0.14	-	-	9
新潟県	1	0.02	44	0.72	1	0.09	5	0.45	-	-	-	-	2	0.17	3	0.25	6
富山県	1	0.03	4	0.14	-	-	3	0.43	-	-	-	-	4	0.80	-	-	3
石川県	-	-	3	0.10	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.40	-	-	21
福井県	1	0.05	9	0.41	-	-	1	0.33	-	-	-	-	4	0.67	-	-	6
山梨県	-	-	1	0.04	-	-	1	0.11	-	-	-	-	1	0.10	-	-	1
長野県	-	-	16	0.29	-	-	5	0.45	-	-	1	0.09	2	0.18	-	-	3
岐阜県	3	0.06	44	0.83	-	-	8	0.73	-	-	1	0.20	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	31	0.36	-	-	7	0.35	-	-	-	-	4	0.40	-	-	24
愛知県	7	0.04	75	0.41	2	0.06	11	0.34	-	-	-	-	5	0.36	2	0.14	9
三重県	1	0.02	-	-	-	-	2	0.17	-	-	-	-	-	-	-	-	10
滋賀県	2	0.06	29	0.91	-	-	2	0.29	-	-	-	-	3	0.43	-	-	1
京都府	2	0.03	20	0.27	-	-	5	0.28	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	9	0.05	34	0.18	1	0.02	22	0.44	2	0.15	2	0.15	9	0.69	-	-	22
兵庫県	2	0.02	40	0.31	-	-	33	0.94	-	-	2	0.17	-	-	-	-	38
奈良県	-	-	9	0.26	-	-	5	0.56	-	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	2	0.06	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
鳥取県	-	-	1	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.40	-	-	2
島根県	1	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
岡山県	5	0.09	19	0.35	-	-	9	0.75	-	-	-	-	2	0.40	1	0.20	15
広島県	8	0.11	8	0.11	-	-	37	1.95	-	-	-	-	7	0.33	-	-	16
山口県	11	0.22	20	0.41	1	0.11	6	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	14
徳島県	2	0.09	1	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	2	0.07	2	0.07	1	0.33	4	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	2	0.05	13	0.35	-	-	22	2.75	-	-	-	-	1	0.17	-	-	8
高知県	1	0.03	37	1.23	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	26
福岡県	15	0.13	60	0.50	-	-	18	0.69	-	-	-	-	2	0.13	-	-	8
佐賀県	1	0.04	37	1.61	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.67	-	-	2
長崎県	-	-	7	0.16	2	0.25	8	1.00	-	-	-	-	4	0.33	-	-	-
熊本県	19	0.40	14	0.29	-	-	12	1.33	-	-	1	0.07	-	-	-	-	5
大分県	5	0.14	2	0.06	-	-	11	2.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	2	0.06	30	0.83	1	0.17	15	2.50	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	2	0.04	4	0.07	-	-	8	1.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	2	0.06	-	-	13	1.30	1	0.14	-	-	34	4.86	-	-	11

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

注) 報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2008年13週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群 (SARS)						結核		細菌性赤痢		ウエストナイル熱	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		サル		鳥類		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2008年13週

	エキノコックス症		インフルエンザ(H5N1)	
	犬		鳥類	
	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-

感染症週報 第10巻 第13号 2008年4月11日発行
 発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター

〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

< 国立感染症研究所 感染症情報センター >

<http://www.mhlw.go.jp/>

< 厚生労働省 >

<http://www.forth.go.jp/>

< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。